

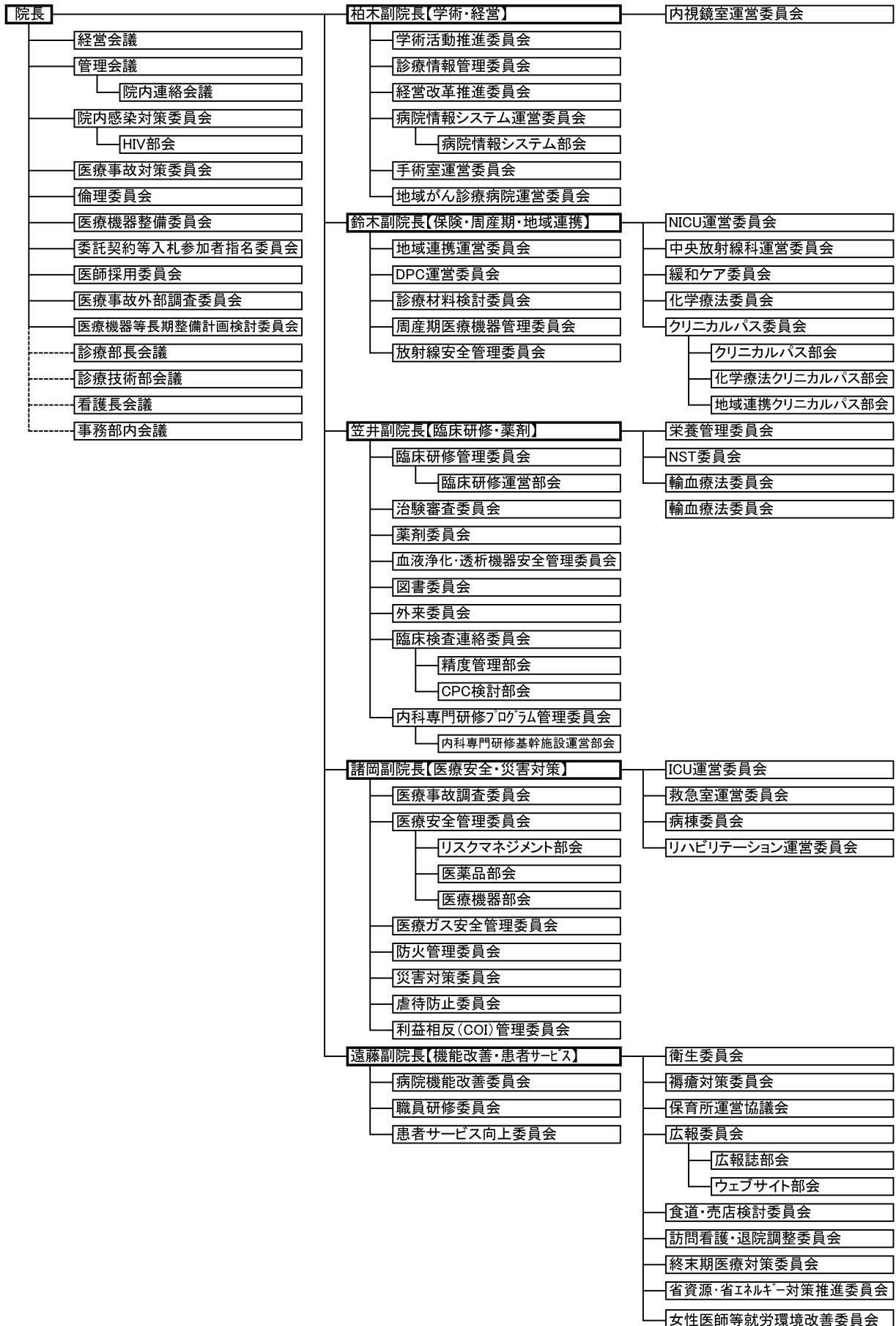
## 17 院内各種委員会等の活動実績

### 各種委員会等一覧（掲載ページ）

ページ	委員会名	ページ	委員会名
131	衛生委員会	169	経営改革推進委員会
132	保育所運営協議会	170	化学療法委員会
133	D P C 運営委員会	171	診療材料検討委員会
135	職員研修委員会	172	I C U 運営委員会
136	図書委員会	174	医療事故調査委員会
137	診療情報管理委員会	175	医療事故対策委員会
138	医療機器整備委員会	176	病院情報システム運営委員会
139	手術室運営委員会	177	血液浄化・透析機器安全管理委員会
141	薬剤委員会	179	周産期医療機器管理委員会
142	治験審査委員会	180	地域連携運営委員会
143	医療ガス安全管理委員会	181	患者サービス向上委員会
145	臨床研修管理委員会	183	学術活動推進委員会
147	院内感染対策委員会	184	病棟委員会
148	倫理委員会	185	女性医師等就労環境改善委員会
149	訪問看護退院調整委員会	186	外来委員会
150	栄養管理委員会	188	放射線安全管理委員会
151	中央放射線科運営委員会	189	災害対策委員会
152	臨床検査連絡委員会	191	防火管理委員会
153	救急室運営委員会	192	虐待防止委員会
154	内視鏡室運営委員会	193	臨床研修センター
155	褥瘡対策委員会	194	富士市透析防災ネットワーク
157	クリニカルパス委員会	195	利益相反（COI）委員会
159	病院機能改善委員会	196	N I C U 運営委員会
161	N S T 委員会	197	地域がん診療病院運営委員会
163	輸血療法委員会	198	リハビリテーション運営委員会
164	医療安全管理委員会	199	医療機器等長期整備計画検討委員会
166	緩和ケア委員会	200	省資源・省エネルギー対策推進委員会
167	広報委員会		終末期医療対策委員会
168	食堂・売店検討委員会		内科専門研修プログラム管理委員会

委員会・各種会議 組織図

(平成28年4月1日現在)



## ■衛生委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	千葉 博胤（小児科）
副委員長	浮池 梓（外科）	委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
委員	小林 正典（薬剤科）	委員	尾形 裕以（臨床検査科）
委員	井出 敦之（中央放射線科）	委員	長嶋 泰玄（リハビリテーション科）
委員	関 恭子（栄養科）	委員	山田 順一（外来C）
委員	倉島 志保（4A病棟）	委員	鈴木 春美（5B病棟）
委員	越智 悦子（3B病棟）	委員	深澤 公保（病院総務課）
委員	角入 あゆ美（病院経営課）	委員	島田 英介（医事課）
委員	鈴木 裕子（病院総務課）	事務局	井出 大介（病院総務課）

#### 概要

労働安全衛生法第18条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進、及び公務災害の原因、再発防止対策や安全に職務を遂行できる環境を整えることを目的として、対策の協議や審議を行う。

### 2 開催回数

1回／月

### 3 平成28年度の実績

- (1) 定期健康診断の実施  
(一般定期健診、特定業務従事者健診、電離放射線業務従事者の健康診断など)
- (2) ワクチン接種  
(インフルエンザワクチン接種、HB ワクチン接種、HBV 及び HCV 検診)  
(MR ワクチン接種)
- (3) 安全衛生対策の計画及び実施（安全衛生事業計画など）
- (4) 病棟職場巡視

### 4 来年度の課題

- (1) 健康診断の受診率100%を目指し、職員への周知を図るとともに、要受診者等に対するフォローを徹底する
- (2) 公務災害・労働災害件数を減らす
- (3) 職場巡視を行い職員の安全・安心を守る

(文責 木村 哲夫)

## ■保育所運営協議会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会長	杉沢 利次（事務部長）	副会長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
会員	白川 安俊（病院総務課）	会員	島田 英介（職員組合）
会員	山田 桂子（父母代表）	会員	内藤 榮一（緑が丘保育園園長）
会員	佐藤 恵美子（保育所）	事務局	加瀬 真己子（病院総務課）

### 2 開催回数

1回

### 3 平成28年度の実績

昭和60年から委託により院内保育所を運営しており、本協議会において運営上必要な事項についての協議を行っている。

平成28年8月8日に開催された本年度保育所運営協議会において、以下の項目について協議を行い、運営内容を一部変更した。

#### ①災害発生時の対応及び耐震性について

避難時の連絡体制及び保育所施設の耐震性を確認した。

#### ②第二避難場所について

中央公園花時計前から第三駐車場に変更し、協議会において承認された。

#### ③保育所のセキュリティー強化について

新たに緊急通報装置を設置した。

保育所緊急通知マニュアルを作成し、警備室との連携を図った。

### 4 来年度の課題

病児保育や慣らし保育の実施など、新たな取り組みについて検討する。

近隣の院内保育所や市内保育園の運営状況を踏まえ、保護者からの意見をもとにした協議を行い、より良い保育環境の構築を目指す。

（文責 杉沢 利次）



## ■ D P C 運営委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	三川 秀文 (循環器内科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	道躰 隆行 (外科)	委員	渡辺 由喜子 (臨床検査科)
委員	渡邊 浩臣 (薬剤科)	委員	齋藤 正美 (6 B 病棟)
委員	玉舟 正弥 (病院経営課)	委員	森 育洋 (医事課)
事務局	寺田 和子 (医事課)	事務局	島田 英介 (医事課)
事務局	杉山 彩 (医事課)		

### 2 開催回数

12 回 (毎月 1 回、第 4 木曜日)

### 3 平成 28 年度の実績

DPC 運営委員会では年間を通じて診療報酬請求査定率の推移、査定改善策の検討、再審査請求の報告、各外部保険団体からの審査報告、DPC 症例からの基本統計、臨床評価指標、分析結果の報告、DPC や診療報酬に関連したトピックスの報告を行った。

今年度は平成 30 年度診療報酬改定についての速報情報の共有と新規申請施設基準の検討、平成 29 年度機能評価係数Ⅱの対策、診療部長への DPC フィードバック方法の変更、院内全体向け診療報酬研修会を開催した。診療報酬研修会では 52 名の参加があった。

### 4 来年度の課題

平成 30 年度医療介護同時改定に向けた情報共有と対策の立案、総合入院体制加算 2 の施設基準獲得のための検討を行う。

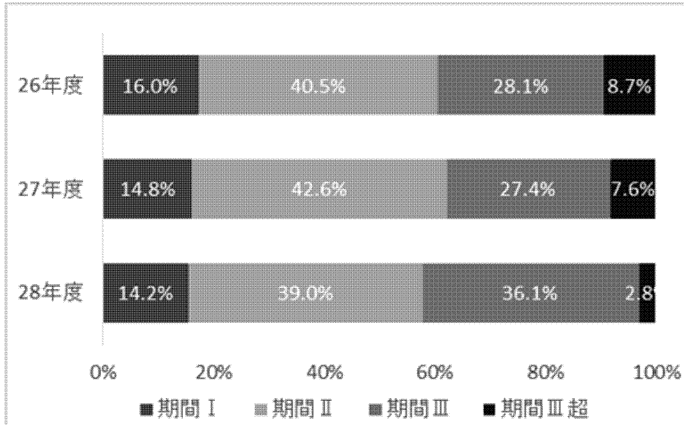
#### 【委員会資料】

診療報酬査定：社保・国保・後期高齢科別返戻・査定状況、月別返戻・査定状況、診療科別返戻・査定状況、診療区分別返戻・査定状況、査定改善策

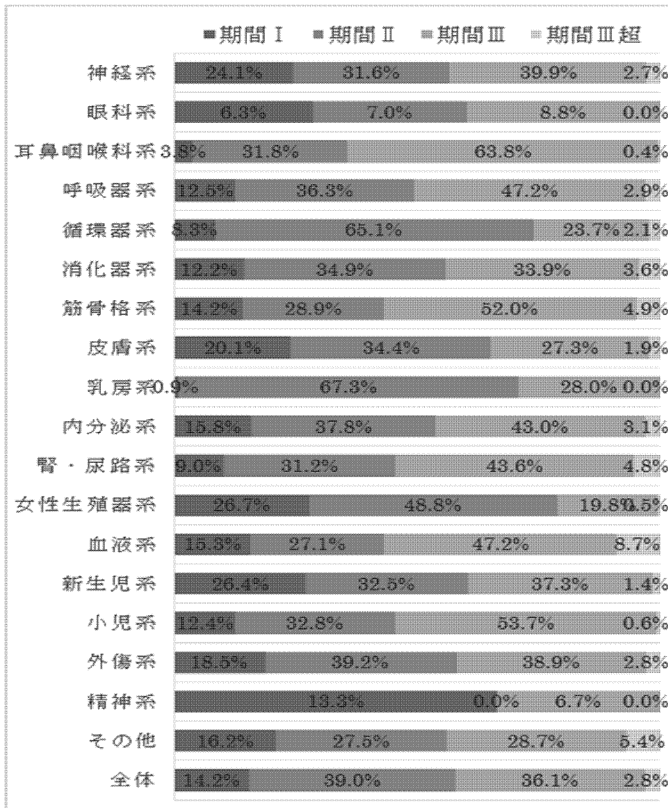
D P C 統 計：出来高比稼働額統計、DPC 症例 (平均在院日数、期間比率、詳細不明コード率等)、臨床評価指標 (死亡率、医療関連感染発生リスク、再入院率、緊急手術率等)、DPC 件数、増収、減収 TOP20

D P C 分 析：県下 3 群病院機能評価係数Ⅱ分析

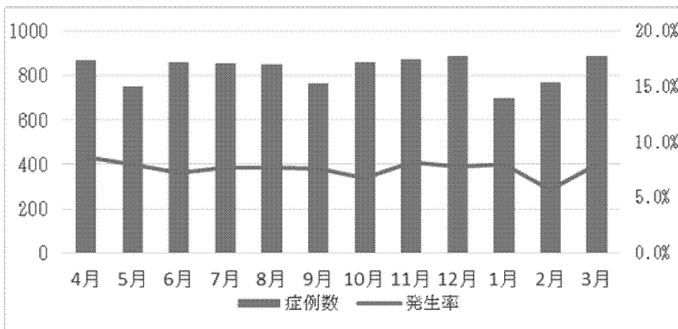
DPC 入院期間比率



DPC MDC2 別入院期間比率



DPC 詳細不明コード発生率推移



【解説】

DPC は病名と治療行為の組み合わせにより入院期間に区切りが設定されており、入院期間は、全国のDPC 病院から集められた情報により厚労省が設定している。期間の設定は入院期間 II が全国平均の入院期間である。

DPC ではこの入院期間 II までの割合が高いほど、効率的に治療が行われていると判断され、DPC を構成する効率性係数という部分に影響する。また DPC で設定された詳細不明コードの割合も効率性係数同様、データ提出係数という部分に影響する。こちらは厚労省に出すデータの精度を評価したものになる。

これらの係数が大きい病院のほうが高度な医療機能を有するとみなされ、1日あたりの診療報酬単価を高く請求することができる。

(文責 鈴木 康之)

## ■職員研修委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	道躰 隆行 (外科)
副委員長	大石 悦子 (副看護部長)	委員	山本 純子 (臨床検査科)
委員	澤口 信孝 (中央放射線科)	委員	松田 祐平 (薬剤科)
委員	佐野 好美 (集中治療室)	委員	倉島 志保 (4 A病棟)
委員	神谷 ちとせ (5 A病棟)	委員	兒玉 はるみ (6 A病棟)
委員	大井 康子 (7 A病棟)	委員	山中 陽子 (3 C病棟)
委員	清水 涼真 (病院経営課)	委員	川口 愛美 (医事課)
事務局	佐野 昌哉 (病院総務課)		

### 2 開催回数

6回不定期

### 3 平成28年度の取組実績

職員研修委員会は、職員の能力及び勤務能率の向上を図ることを目的として、昭和60年7月1日に設置された。

主とする活動内容は院内職員向けの研修企画と先進病院等の視察である。

平成28年度は、患者やその家族などからの要望・問い合わせに対する適切な対応方法や、より良いコミュニケーションの取り方について、外部講師を招き講演会を開催。職員90名の参加があった。

また、職員一人ひとりが認知症を正しく理解し、知識を習得することが通常業務においても有益であると考え、認知症サポーター養成講座を開催し、職員128名が参加した。

先進病院等の視察では、東京ビックサイトで行われたHOSPEX Japan 2016に参加。このイベントは日本最大級の医療・福祉設備機器に関する専門展示会であり、職員それぞれが各業務に関連する分野において、新たな知識を習得すると同時に、先進技術に対する意識の向上を図った。

### 4 来年度の課題

職員の更なる能力向上やリフレッシュのためのテーマを決め、研修会の開催をはじめ、先進技術を取り扱う施設等への視察を計画する。

(文責 遠藤 さよ子)

## ■図書委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）	副委員長	平川 正彦（形成外科）
委員	鳥巢 勇一（消化器内科）	委員	藤谷 暢子（眼科）
委員	重田 泰史（耳鼻咽喉科）	委員	遠藤 泰彦（病理診断科）
委員	矢田部 沙織（外科）	委員	勝見 俊介（整形外科）
委員	山下 隆之（整形外科）	委員	大石 悦子（副看護部長）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	寺田 和子（医事課）
事務局	齋藤 智恵美（医事課）		

### 2 開催回数

3回（6月、10月、12月）

### 3 平成28年度の取組実績

- ・年間で155冊の医学書籍の購入を行った。
- ・雑誌125誌の定期購読契約更新（和雑誌103誌・洋雑誌22誌）を行った。
- ・オンライン電子図書サービスの「メディカルオンライン」「J dreamⅢ」「医中誌」「今日の診療」「電子ジャーナル」「Clinical Key」の更新を行った。
- ・電子書籍の利用を促進するため、オンライン電子図書サービスの案内を医師全員に対して行った。
- ・診療部・看護部・診療技術部を対象に、新たな電子書籍のトライアル視聴と利用後アンケート調査を行い、導入を検討した。
- ・地域医療支援病院申請に関連し、地域連携室と共同で医学資料室の外部利用規定を整備・検討した。

### 4 来年度の課題

- ・医学雑誌の電子ジャーナル化を一層促進するとともに、定期購読誌の見直しを行う。
- ・オンライン電子図書サービスの利用率を高めるため、積極的な利用案内を行う。
- ・医学資料室の利便性や機能性の向上、方向性について検討を行う。

（文責 笠井 健司）

## ■診療情報管理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	阪本 宏志（循環器内科）
委員	加藤 努（整形外科）	委員	津島 友央（皮膚科）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	石澤 将（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	鈴木 英訓（泌尿器科）	委員	森本 康江（4 B病棟）
委員	齋藤 洋実（3 C病棟）	委員	寺田 和子（医事課）
事務局	島田 英介（医事課）	事務局	齋藤 智恵美（医事課）

### 2 開催回数

5回（隔月、第2木曜日）

### 3 平成28年度の取組実績

診療情報管理委員会では、以下の内容を検討・実施した。

- ・電子カルテ DWH の使用を、各職種の使用権限と情報抽出について確認した。
- ・記録を一元化するため、スキャン書類の統一について検討を行いマニュアル作成した。
- ・医師の電子カルテ承認作業の負担軽減・診療録の真正性を保つため、電子カルテ代行入力承認マニュアルを作成した。
- ・個人情報保護法方針の拡大について検討した。臨床研究データのための包括同意の掲示と不同意書の運用を開始した。
- ・サマリー作成率向上のため、診療科を細分化した資料を毎月診療部長会議へ提出し、12月より全体の作成率は90%を超えた。
- ・医学資料室の業務拡大（手術室代行入力）について検討した。
- ・臨床指標の定期的計測を行った。
- ・診療録の保存期間について検討した。フィブリノゲンに関しては、納入時期の診療録保存状況調査を調査・報告し、平成30年1月まで保存することとした。

### 4 来年度の課題

来年度は施設基準の診療録管理体制加算1の要件として、退院後14日以内のサマリー作成率90%を維持したい。また、病院機能評価受審のための準備として、診療録の量的監査を開始する。引き続き、診療録の保存期間について検討を行う。

（文責 柏木 秀幸）

## ■医療機器整備委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	小野寺 昭一（院長）	委員	杉沢 利次（事務部長）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	白川 安俊（病院総務課）
事務局	佐山 侑希（病院総務課）		

### 2 開催回数

1回

### 3 平成 28 年度の実績

医療機器の適正なる整備を図ることを目的とし、以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の性能等を総合的に検討し購入機種を決定した。

- ・ 白内障摘出手術装置の更新（アルコン社製、眼科）

### 4 来年度の課題

平成 29 年度購入予定機器

- ・ 低温プラズマ滅菌装置の更新
- ・ EOG 滅菌器の更新
- ・ 補助循環装置の更新

（文責 柏木 秀幸）

## ■手術室運営委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副委員長	井上 恒佳 (麻酔科)
副委員長	小林 由美 (手術室)	委員	柏木 秀幸 (副院長)
委員	平川 正彦 (形成外科)	委員	高橋 康人 (腎臓内科)
委員	織井 恒安 (心臓血管外科)	委員	阿部 恭平 (外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	渡辺 勝 (眼科)
委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)	委員	木下 浩司 (循環器内科)
委員	諸岡 暁 (脳神経外科)	委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)
委員	池谷 幸一 (中央放射線科)	委員	山元 義雄 (臨床工学科)
委員	鈴木 英昭 (臨床検査科)	委員	石川 裕子 (手術室)
委員	望月 久子 (手術室)	委員	杉本 祐介 (手術室)
委員	佐野 陽子 (手術室)	委員	伊藤 輝美 (手術室)
委員	中川 貴裕 (病院総務課)	事務局	手術室

### 2 開催回数

12回 (毎月1回、最終月曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

- 1) 平成28年度に手術室を利用した手術は、総手術件数3,804件 (平成27年度3,788件, 平成26年度3,729件)、緊急手術559件 (564件, 563件)、定期手術3,245件 (3,224件, 3,166件)、全身麻酔手術1,654件 (1,605件, 1,564件)、全身麻酔以外2,150件 (2,183件, 2,165件)であった。手術件数の増加は16件(0.4%)であったが、主に定期の全麻手術の増加によるものであった。
- 2) 手術件数の増加により科別の手術時間の延長は35-50%と多く、定期手術の退出時間が午後5時以降となる件数も少なくなかった。
- 3) 手術室の運用責任者として、手術管理科部長を新設し、手術室の運用や診療部の調整、そして緊急時の対応ができる管理体制を構築した。

### 4 来年度の課題

- 1) 手術室内手術情報代行入力業務を開始する
- 2) 手術室の老朽化した診療機器の更新を行う
- 3) 外部委託業者の選択を行う
- 4) 手術スタッフの人手不足の改善に努める

(文責 良元 和久)

平成28年度 手術室稼働統計

【緊急・定期別件数】

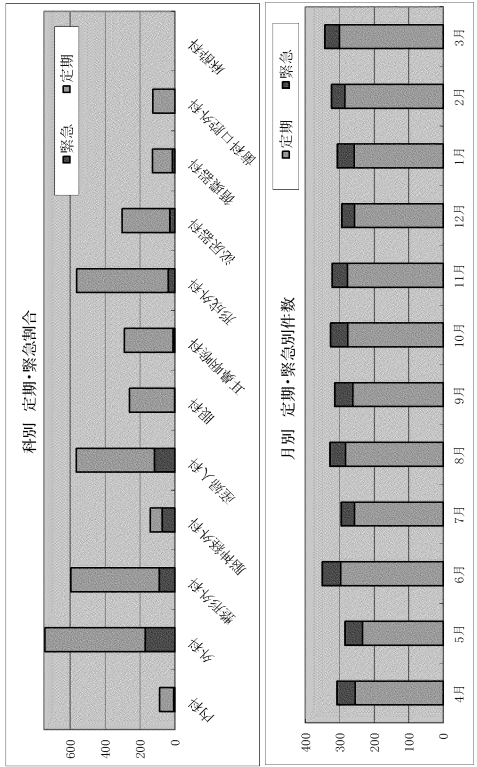
診療科	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計			
	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期
内科	89	7	1	9	3	1	1	3	1	1	5	10	1	7	1	1	7	1	10	1	7	2	10	2	9	8	81	
外科	744	13	43	48	18	41	13	41	13	42	17	45	15	54	16	46	48	10	55	15	55	15	56	15	56	170	574	
整形外科	595	11	42	31	6	55	10	38	8	40	8	46	11	37	4	48	10	35	6	39	6	33	3	49	91	504		
脳神経外科	142	6	6	5	3	5	4	2	5	8	11	2	10	8	6	10	5	7	4	7	9	7	9	7	5	75	67	
産婦人科	564	14	33	10	39	13	41	9	41	10	38	9	36	9	13	35	6	40	8	31	9	39	8	37	118	446		
眼科	260	23	1	23	22	17	1	22	1	28	16	20	16	26	22	22	2	22	20	20	20	25	24	24	2	258		
耳鼻咽喉科	290	2	21	2	19	1	25	27	33	1	20	1	20	27	33	29	18	24	24	24	2	18	3	20	11	279		
形成外科	562	3	35	6	30	5	54	1	41	4	55	3	48	1	46	5	39	2	34	3	46	2	45	3	51	38	524	
泌尿器科	303	2	22	1	15	4	23	3	24	3	21	2	27	3	22	1	24	2	23	5	21	2	25	2	26	30	273	
循環器科	128	2	11	1	6	3	12	2	13	1	6	2	7	8	9	2	11	1	9	1	12	1	9	9	15	15	113	
歯科口腔外科	127		13	11	1	11					10			9		5			10		10				15	1	126	
麻酔科																												
総計	3804	53	256	51	234	54	297	39	257	46	283	53	262	50	277	44	278	38	257	49	258	39	285	43	301	559	3245	

【麻酔区分別件数】

診療科	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計			
	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外
内科	89	7	10	3	3	2	11	8	21	15	11	8	11	11	8	10	8	15	48	15	48	15	47	18	10	11	89	
外科	744	37	19	38	23	50	14	34	17	41	14	44	18	44	21	48	21	47	15	48	15	47	18	47	24	525	219	
整形外科	595	20	33	12	30	25	36	12	36	18	30	23	31	19	29	19	28	13	39	19	26	22	23	20	32	222	373	
脳神経外科	142	3	9	4	4	6	2	2	4	9	4	9	9	9	9	7	6	4	4	4	6	10	6	6	6	6	72	70
産婦人科	564	19	28	29	20	23	31	23	27	25	23	24	21	23	22	29	19	27	19	21	18	24	24	29	16	296	268	
眼科	260	1	22	1	23	1	21	17	3	26	16	16	16	22	22	22	22	12	20	20	20	21	24	1	23	8	252	
耳鼻咽喉科	290	20	3	18	3	21	5	26	1	30	3	18	3	19	6	22	7	16	2	20	4	18	2	22	1	250	40	
形成外科	562	5	33	4	32	7	52	7	35	7	52	4	47	5	42	6	38	6	30	3	46	4	43	5	49	63	499	
泌尿器科	303	3	21	2	14	7	20	2	25	7	17	2	27	4	21	3	22	3	22	4	22	5	22	6	22	47	256	
循環器科	128	5	8	4	3	6	9	8	7	5	6	3	5	5	7	2	8	5	5	5	8	4	6	5	4	68	60	
歯科口腔外科	127	10	3	9	2	11	1	9	1	9	2	10	8	1	4	1	8	2	8	7	3	9	2	9	6	103	24	
麻酔科																												
総計	3804	123	186	121	164	157	194	123	173	154	175	180	180	186	191	146	176	134	161	131	176	144	180	150	194	1654	2150	

【手術室稼働件数・年別推移】

診療科	申込区分別						麻酔区分別						合計				
	定期		緊急		全麻		全麻以外		26年度		27年度		28年度		26年度	27年度	28年度
	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	28年度
内科	93	87	81	1	4	8	94	90	89	94	91	89	94	91	89	89	89
外科	531	558	574	159	166	170	463	512	525	227	212	219	690	724	744	744	744
整形外科	535	522	504	73	80	91	214	231	222	394	371	373	608	602	595	595	595
脳神経外科	50	54	67	86	78	75	65	74	72	71	58	70	136	132	142	142	142
産婦人科	472	486	446	125	132	118	286	285	296	311	333	268	597	618	564	564	564
眼科	228	223	258	2	2	2	8	8	8	222	217	252	230	225	260	260	260
耳鼻咽喉科	260	243	279	22	14	11	242	237	250	40	20	40	282	257	290	290	290
形成外科	518	558	524	43	53	38	72	55	63	489	556	499	561	611	562	562	562
泌尿器科	257	248	273	32	17	30	41	37	47	248	228	256	289	265	303	303	303
循環器科	85	108	113	15	15	15	40	40	68	60	83	60	100	123	128	128	128
歯科口腔外科	137	137	126	4	2	1	133	125	103	8	14	24	141	139	127	127	127
麻酔科																	
総計	3166	3224	3245	563	564	559	1564	1605	1654	2165	2183	2150	3729	3788	3804	3804	3804





## ■薬剤委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	落合 敏明 (薬剤科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	平川 正彦 (形成外科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	石澤 将 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科)
委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委員	井上 恒佳 (麻酔科)
委員	河野 優 (神経内科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	日馬 由貴 (小児科)	委員	織井 恒安 (心臓血管外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	良元 和久 (手術管理科・外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	松井 洋 (放射線科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	玉舟 正弥 (病院経営課)
委員	寺田 和子 (医事課)	事務局	薬剤科

### 2 開催回数

3回開催【6月・10月・2月の第3週月曜日：平成28年6月20日(月)、平成28年11月7日(月)、平成29年2月20日(月)】

### 3 平成28年度の取組実績

新規採用薬品、院外処方許可薬品、後発薬品、削除薬品の選定、その他医薬品に関する審議を行った。

- ①新規採用品目 : 64製剤 82品目
- ②院外処方許可薬 : 28製剤 31品目
- ③後発薬品 : 6製剤 6品目
- ④削除薬品 : 28製剤 31品目
- ⑤後発薬品置き換え率 : 77.4%

### 4 来年度の課題

- ①採用薬品の選定: より良い医療が提供できる適切な医薬品の採用に努める。また、適正在庫に努め、削除品目の選定を行う。
- ②後発薬品の選定: 「後発薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」に従い、後発薬品置き換え率80%をめざす。

(文責 笠井 健司)

## ■ 治験審査委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	落合 敏明 (薬剤科)
委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経科部長)
委員	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	委員	杉沢 利次 (事務部長)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	安倍 徹 (前静岡県教育長)
委員	石山 むづ美 (常葉大学保育学部准教授)	事務局	薬剤科

### 2 開催回数

開催なし

### 3 平成 28 年度の取組実績

治験審査委員会として認められる組織の構築及び治験を含む臨床研究に関する最新情報収集のため、外部研修会に出席した。

#### (1) 平成 29 年 1 月 20 日 (金)

研修名：「臨床研究・治験の基礎知識」

講師：独立行政法人国立病院機構本部 総合研究センター 瀬戸 聡子

場所：三島商工会議所 4 F 大会議室

内容：臨床研究・治験の基礎知識、最近の話題等を次の 6 つのテーマに分けて解説。①治験と臨床研究、②GCP と倫理指針、③治験審査委員会・倫理審査委員会、④治験・臨床研究に関連する業務、⑤その他のトピック (拡大治験)、⑥薬剤師のキャリアアップという視点から。

### 4 来年度の課題

IRB (Institutional Review Board: 治験審査委員会) の開催に要する人的及び経済的負担の軽減

<今後の解決策>

IRB の審査対象となる情報・資料は膨大であり、今後の治験は、外部 IRB を利用する。当院での実施については、倫理委員会で審査する。

(文責 笠井 健司)

## ■医療ガス安全管理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁(副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	杉沢 利次(事務部長)
委員	遠藤 さよ子(副院長兼看護部長)	委員	井上 恒佳(麻酔科)
委員	石川 隆之(臨床検査科)	委員	井出 宣孝(診療技術部長)
委員	落合 敏明(薬剤科)	委員	山元 義雄(臨床工学科)
委員	白川 安俊(病院総務課)	事務局	中川 貴裕(病院総務課)
事務局	宇佐美 友紀(病院総務課)		

### 2 開催回数

1回：平成28年11月11日(金)

### 3 平成28年度の取組実績

医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とし、以下の内容を実施した。

#### 1) 医療用ガスボンベの巡回点検

【日時】平成28年6月30日(木)

【目的】医療用ガスボンベの安全確認と高圧ガスであることの認識を高めるため、各設置場所(21部署)を巡回点検し、問題がある場合は指導を行い、改善を図る。

【内容】1. 酸素ボンベ置場の表示

2. 酸素ボンベの本数と保管状況(高圧ガス保安法第15条、保安規則18条)

①酸素の充填容器の周囲2m以内には引火性のものを置かないこと

②転倒防止の措置を講じること

③直射日光に当てないなど常に40℃以下に保つこと

3. 流量計取付け用レンチの有無

#### 2) 「医療ガス安全使用に関する講習会」の開催

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

日時	対象	参加人数	研修内容
H28. 4. 25	新規採用看護師	37名	酸素ボンベの取扱い他(実習・ビデオ)
H28. 5. 20	卒2看護師他	30名	酸素ボンベの取扱い他(実習・ビデオ)
H28. 11. 1 18 25	医療補助員	98名	事故症例・酸素ボンベについて 配管末端の日常点検

#### 4 来年度の課題

- 1) 医療ガスに関する環境整備（法令順守）の徹底を行い事故防止に努める
- 2) 配管端末器、ホースアセンブリの日常点検の慣習化
- 3) 巡回点検により医療ガスの認識度を高める
- 4) 安全講習会を継続的に開催し、医療ガスによる事故防止の啓発活動に努める

（文責 諸岡 暁）

## ■臨床研修管理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	小野寺 昭一 (院長)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	井上 恒佳 (麻酔科)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員	杉沢 利次 (事務部長)
委員 (外部)	永井 しづか (富士保健所)	委員 (外部)	高木 啓 (鷹岡病院)
委員 (外部)	上田 正山 (上田クリニック)	委員 (外部)	海野 公成 (海野皮フ科医院)
事務局	鈴木 裕子 (病院総務課)		

### 2 開催状況

第1回臨床研修管理委員会 (平成29年3月13日)

議題 (1) 平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画 (案) について

(2) 研修医の初期臨床研修修了認定について

(3) 平成28年度・29年度の初期臨床研修医について

(4) 臨床研修案内及びプログラム (案) について

### 3 平成28年度の取組実績

- (1) 研修医採用 医師：1名  
歯科医師：0名 (日本歯科大学協力病院として)
- (2) マッチング 申込者：1名、マッチ：1名 (2次募集含む受験者7名)
- (3) 合同説明会
- ①静岡県医師臨床研修病院 (初期・後期) 合同説明会 in 沼津  
平成28年6月12日 (日) プラザヴェルデ
  - ②レジナビフェア2016 in 東京  
平成28年7月17日 (日) 東京ビッグサイト
  - ③ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ夏季セミナー  
平成28年8月23日 (火) ホテルクラウンパレス浜松
  - ④静岡県医師臨床研修病院 (初期・後期) 合同説明会 in 浜松  
平成28年8月23日 (火) ホテルクラウンパレス浜松
  - ⑤聖マリアンナ医科大学訪問  
平成29年3月10日 (金)
  - ⑥レジナビフェアスプリング2017 東京  
平成29年3月19日 (日) 東京ビッグサイト

⑦静岡県医師臨床研修病院（初期・後期）合同説明会 in 静岡  
平成 29 年 3 月 25 日（土）グランシップ

- (4) 医学生病院見学 36 名（日本医科大学、聖マリアンナ医科大学 他）
- (5) 東京慈恵会医科大学実習生（クリニカルクラークシップ）受入れ  
消化器内科 6 名、循環器内科 4 名、小児科 9 名
- (6) 浜松医科大学実習生受入れ  
産婦人科 8 名
- (7) 医師・歯科医師・薬剤師志望の市内高校生 1 日体験  
平成 28 年 8 月 3 日（水） 22 名（富士高 13 名、富士東高 7 名、その他 2 名）
- (8) ブラックジャックセミナー協力（市内中学生手術模擬体験）  
平成 28 年 9 月 10 日（土） 36 名
- (9) 合同研修会等
  - ①静岡県主催初期臨床研修合同研修会  
超音波診断・縫合・心電図・感染制御  
平成 28 年 5 月 29 日（日）
  - ②静岡県主催初期臨床研修合同研修会  
挿管・分娩技術・中心静脈穿刺・胸部エコー  
平成 28 年 11 月 12 日（土）
  - ③災害対策訓練  
平成 28 年 11 月 27 日（日）
  - ④手術手技講習会  
平成 29 年 1 月 16 日（土）
  - ⑤臨床研修医スキルアップ研修  
毎月第 4 金曜日

（文責 笠井 健司）

## ■院内感染対策委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	小野寺 昭一（院長）	副委員長	後藤 博一（感染対策室長・泌尿器科）
委員	柏木 秀幸（副院長）	委員	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	笠井 健司（副院長兼腎内科部長）	委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	大石 悦子（副看護部長）
委員	杉沢 利次（事務部長）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
委員	田中 稔（副看護部長兼医療安全対策室長）	委員	増田 満伯（感染対策室）
事務局	感染対策室		

### H I V部会スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	部員	6名

### 2 開催回数

12回（毎月1回、第1金曜日医療安全管理委員会と同時開催）

### 3 平成28年度の実績

病院感染低減のため感染防止活動の指示及び統括を行った。

ICTからの検討事項の承認やインフルエンザ対策としての面会制限など病院感染防止を指示した。

また、感染性廃棄物は段ボール製廃棄容器の導入によりコスト削減を達成した。

### 4 来年度の課題

感染対策に関する最新知見やエビデンスを考慮した病院感染防止活動を推進し、安全な医療を提供し地域に信頼される病院となる。

また、地域と緊密な連携をとり、富士医療圏の感染対策強化に努める。

（文責 柏木 秀幸）

## ■倫理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸 (副院長)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	委員	落合 敏明 (薬剤科)
委員	杉沢 利次 (事務部長)	委員	森 育洋 (医事課) 1月～
外部委員	安倍 徹 (前静岡県教育長)	外部委員	石山 むづ美 (常葉大学保育学部准教授)
事務局	深澤 公保 (病院総務課)		

### 2 開催回数

15回 (定例：9回、迅速6回)

### 3 平成 28 年度の取組実績

倫理委員会は、当院における医療の倫理に関する事項を審議するため、平成 7 年 5 月 10 日に設置された。

委員会を 15 回開催、19 案件を審議した結果、委員会の意見等を付して 15 案件を承認した。

申 請 内 容	申請	承認	修正を要する	申請を要しない	その他
論文化、学会雑誌への投稿	1	1	—	—	—
保険適応外の検査、診療、 薬剤使用	7	4	2	—	1
他施設で行われる治験への参加	6	6	—	—	—
当院としての対応方針の検討	2	1	—	1	—
大学・財団等で行われる 医学的研究への参加	3	3	—	—	—

### 4 来年度の課題

文部科学省・厚生労働省が定めた『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の原則を踏まえ、倫理的課題を積極的に取り上げ、定期的に委員会を開催し、迅速かつ精緻な審議を行っていく。

(文責 鈴木 康之)



## ■訪問看護退院調整委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	野澤 里美 (3C病棟)
委員	谷田部 沙織 (外科)	委員	瀧 謙太郎 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	望月 保子 (薬剤科)	委員	小野田 智恵子 (3B病棟)
委員	本多 すみ江 (7A病棟)	委員	河合 利枝 (6A病棟)
委員	赤堀 崇代 (在宅療養支援グループ)	委員	仲澤 実加 (病院総務課)
委員	村松 和歩 (在宅療養支援グループ)	委員	佐藤 理絵 (医事課)
委員	宇佐美 朝子 (栄養科)	事務局	村松 和歩 (在宅療養支援グループ)

### 2 開催回数

3回 (6月、11月、3月 第3水曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

#### (1) 訪問看護実施患者の紹介と経過報告及び訪問看護終了者報告

訪問看護実施中の患者について訪問看護師より状態説明を行い、困難ケースや在宅終末期ケアの実際について他のスタッフと検討した。さらに、訪問看護終了者について事例を検討し、看護の実際について情報を共有した。

#### (2) 新規訪問看護患者の紹介と承認

病棟より依頼を受けた患者について、当院での訪問看護を実施するための承認を受けた。承認患者数：41名

#### (3) 退院調整患者報告

退院調整実施患者の報告を行い、困難事例について検討した。

検討患者数：19名

#### (4) 訪問看護・退院調整業務の運営について、問題点を抽出し改善点について検討した。

#### (5) 在宅終末期ケアが必要な患者・家族への支援について事例検討会を行った。

#### (6) 日本看護協会認定訪問看護認定看護師が看護の専門性を発揮した活動を行った。

### 4 来年度の課題

平成29年度の病院指針「急性期医療の充実と連携強化で地域に信頼される病院」のもと、看護部訪問看護退院調整担当委員会と連携し、さらに専門的ケアが必要な患者に対しては他分野の認定看護師と同行訪問し、患者・家族の満足度が向上する活動を実施していく。  
(文責 伊藤 すみ子)

## ■栄養管理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	坪井 一人（外科）	副委員長	井出 宣孝（診療技術部長）
委員	木村 哲夫（呼吸器内科）	委員	秋山 直枝（小児科）
委員	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）	委員	市原 恒平（外科）
委員	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	森本 康江（4 B病棟）
委員	松山 早登美（5 B病棟）	委員	大塚 君子（6 A病棟）
委員	高井 みさ子（7 B病棟）	委員	杉沢 利次（事務部長）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	小俣 朋子（栄養科）	事務局	關 恭子（栄養科）
事務局	古郡 朝子（栄養科）	事務局	大山 実希（栄養科）

### 2 開催回数

3回（毎月定例会報告を実施及び5月・9月・3月に開催実施）

### 3 平成28年度の取組実績

- ①委員会のメンバーで昼食を検食し献立の検討をしている。
- ②食事についての嗜好調査実施結果を報告した。（年間4回実施）
- ③箸、スプーン、マグカップの個数については、定期的に報告し確認、併せて破損状況も確認、紛失・破損が多い場合は追加購入を協議し補充した。
- ④給食業務委託は5年契約であり、平成28年9月末で日本ゼネラルフード株式会社の期間が終了した。新たな業務委託先に関しては、プロポーザルによる業者選定を行い、平成28年10月以降は日本ゼネラルフード株式会社に決定した。
- ⑤異物混入等の食事に関するインシデント・アクシデントについての報告を行い、委員会内で再度その後の対応・改善策について協議し、誤配膳防止対策として禁止食品があるコメント対応患者に対してのトレーを色分け（ピンク色）や、専用食器を導入し注意喚起を行った。

### 4 来年度の課題

今後も検食、嗜好調査を通して病院食のさらなる改善を図っていく。また、食事に関するインシデント・アクシデント報告については、他部門の意見を取り入れた再発防止策を実践していくことで、インシデント・アクシデント発生件数を減少するように努めていく。

（文責 坪井 一人）

## ■中央放射線科運営委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	松井 洋 (放射線科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	織井 恒安 (心臓血管外科)	副委員長	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)
委員	良元 和久 (手術管理科・外科)	委員	吉野 薫 (脳神経外科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	高木 省一 (中央放射線科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員	西田 英明 (臨床工学科)	委員	遠藤 聡 (臨床検査科)
委員	北島 美鈴 (外来A)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	望月 敦子 (外来C)	事務局	遠藤 佳秀 (中央放射線科)

### 2 開催回数

2回

### 3 平成28年度の取組実績

#### (1) 血管造影室(17室)の予約枠について

循環器内科から、水曜日午後の脳神経外科の枠を使用したいとの要望あり。脳神経外科部長に諮り、第3水曜日以外に関しては、事前連絡していただき、使用可能なことを確認した場合は枠を貸し出すこととした。今後は、両科の話し合いで方針を決めていただくこととなった。

#### (2) 心臓CTにおけるβブロッカー注射に関すること

循環器内科から、看護師によるβブロッカー注射の実施について要望あり(昨年からの継続案件)。看護部から今後も検討を継続することのこと。

#### (3) オーダー入力した医師とは異なる医師によるオーダー変更について

外来委員会で討論された案件。当委員会の結論としては、行ってはいけない行為であるため、診療部長会議等で周知していただくよう依頼した。

#### (4) 平成29年度中央放射線科医療機器申請について

中央放射線科内の申請順位を1位として、7室一般撮影装置、パノラマ撮影装置、1.5TのMRIの申請を行った。放射線関連機器は高額であるため、今後、長期的な購入計画の検討を依頼していきたい。

#### (5) 17室血管造影装置の点検時における急患対応について

緊急検査時は21室での対応を依頼(点検では装置を分解するため、急いで組み直すリスクを伴うため)。

### 4 来年度の課題

医療機器の計画的更新、及び収益を考慮した現有機器の有効利用

(文責 松井 洋)

## ■臨床検査連絡委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	遠藤 泰彦 (病理診断科)
副委員長	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	三川 秀文 (循環器内科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	日馬 由貴 (小児科)
委員	山城 秀樹 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	熊谷 祐 (外科)
委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	園田 章太 (脳神経外科)	委員	高井 みさ子 (7 B病棟)
委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)	委員	仲澤 実加 (病院総務課)
委員	岡本 功 (医事課)	委員	鈴木 雅人 (臨床検査科)
委員	渡辺 修 (臨床検査科)	委員	渡邊 由喜子 (臨床検査科)
委員	鈴木 英昭 (臨床検査科)		

目的 臨床検査と他部門との相互の連絡を密にし、業務上の糧とする。

### 2 開催回数

4回 (6月、9月、12月、3月の第3水曜日に開催)

※委員会報告は電子カルテより閲覧可能

### 3 平成28年度の取組実績

- ・プロカルシトニン、心筋トロポニンIの院内測定を開始した。
- ・パニック検査値の緊急連絡体制を確立し施行した。
- ・特殊検査委託業者の選定を行いBMLに継続依頼した。
- ・病理解剖遺族承諾書の改訂を行った。
- ・電子カルテマニュアル臨床検査1～5の改訂を行った。
- ・救急心電図依頼の一部代行入力を開始した。
- ・臨床病理検討委員会CPCの実施要領の改訂を行った。
- ・富士市立中央病院CPCを2回、院内CPCを2回を開催した。

### 4 来年度の課題

臨床や他部門からの要望、意見には速やかに対応し、新規検査項目の導入に向けて積極的に取り組みたい。また、多くのCPCが開催できるよう剖検数の増加と委員会の充実に向けて推進していきたい。

(文責 笠井 健司)

## ■救急室運営委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
副委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	北島 美鈴 (外来A)
委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	下村 達也 (泌尿器科)	委員	村上 宏史 (整形外科)
委員	鈴木 貴之 (小児科)	委員	大野 真一 (臨床検査科)
委員	杉山 伸一 (中央放射線科)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	滝澤 佐織 (外来C)	委員	若本 奈緒美 (外来C)
委員	小林 真紀子 (医事課 (地域連携室))	事務局	深澤 公保 (病院総務課)

### 2 開催回数

12回 (毎月1回、第2木曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

平成28年度1年間の救急外来受診者数は9,605名であり、当院に入院となった患者総数は4,062名 (入院率42.3%)。そのうち、休日・祝日・夜間に救急外来を受診した患者総数は7,312名で、当院に入院となった患者総数は、2,904名 (入院率39.7%)であった。

救急車による搬入は総数で3,684名であった。そのうち、入院した患者数は2,104名 (入院率57.1%)であり、休日・祝日・夜間の救急車での搬入患者数は2,519名であった。そのうち、入院した患者数は1,431名 (入院率56.8%)であった。休日・祝日・夜間に医療センターより紹介された患者数は1,440名で、そのうち、入院となった患者総数は716名 (入院率49.7%)であった。診療所・開業医・病院から休日・祝日・夜間に紹介された患者総数は1,027名で、当院に入院となった患者総数は591名 (入院率57.5%)であった。

### 4 来年度の課題

富士市内の二次救急を担う病院は医師不足の状況で救急医療を行っている。そのため、救急医療要請に十分対応できず、近隣の市外の病院への搬送を余儀なくされる事案が生じることもある。この状態を少しでも改善させるためには、二次病院の連携、協力が必要である。また、救急消防隊 (警防課) とは定期的に救急搬送に関する事例検討を行っている。

(文責 藤井 常宏)

## ■内視鏡室運営委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鳥巢 勇一 (消化器内科)	副委員長	北島 美鈴 (外来A)
委員	柏木 秀幸 (副院長)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	鍋島 雄和 (中央放射線科)
委員	高井 みさ子 (7B病棟)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	後藤 光子 (外来D)	委員	勝亦 由美 (外来C)
事務局	内視鏡室		

### 2 開催回数

7回

### 3 平成 28 年度の取組実績

- (1) 放射線 15 室における被ばく低減のための防護カバーを導入した。
- (2) 大腸ポリペクトミーの入院日数に関し、原則前日入院、2泊3日ないし3泊4日入院とし、出血のリスクに応じて入院期間を決定することとした。
- (3) PEG 造設に関し、他院からの紹介の際には外科が造設、院内からの依頼の場合は、外科系は外科が造設、内科系は内科が造設する方針とした。

### 4 来年度の課題

- (1) 本年度に引き続き内視鏡検査、治療の増加が予想されることより、効率の良い運用に努める。
- (2) 内視鏡デバイスの種類が増加しており、不必要な物品の整理・定数管理の見直しを行いたい。
- (3) コスト削減のための内視鏡デバイスの変更や現行物品の納入価格の交渉を NHS と協力して行う。

(文責 佐伯 千里)

## ■褥瘡対策委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	津嶋 友央 (皮膚科)	副委員長	植松 和子 (集中治療室)
委員	平川 正彦 (形成外科)	委員	田中 慶子 (外来A)
委員	田島 眞弓 (外来B)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
委員	伊藤 輝美 (手術室)	委員	鈴木 裕子 (3C病棟)
委員	渡辺 明子 (6A病棟)	委員	山中 祐子 (6B病棟)
委員	小俣 朋子 (栄養科)	委員	關 恭子 (栄養科)
委員	古郡 朝子 (栄養科)	委員	大山 実希 (栄養科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	杉山 かなた (リハビリテーション科)
委員	永嶋 泰玄 (リハビリテーション科)	事務局	齋藤 智恵美 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

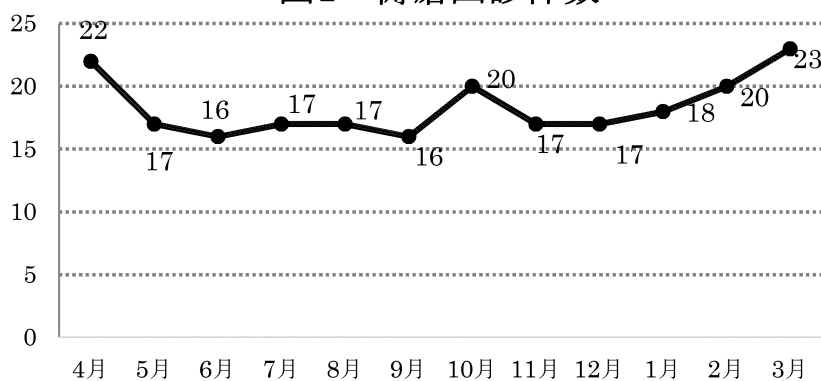
### 2 開催回数

9回 (毎月1回、第4火曜日。8月・12月・3月を除く)

### 3 平成28年度の取組実績

入院時にすでに褥瘡がある患者さん、および入院中に新たに褥瘡が発生した患者さんはすべて褥瘡チームが介入し、定期的に回診を行っている。回診は週に1回行っており、月ごとの回診件数を図1に示す。平均は18.3件/月。持ち込みの褥瘡の件数と入院中に新たに褥瘡が発生した件数を図2に示す。月ごとの褥瘡推定発生率(※)を図3に示す。平成28年度の年間平均値は、1.00%であり全国平均の1.40%より低い。

図1 褥瘡回診件数



褥瘡ハイリスク患者ケア加算 (1入院につき1回算定: 500点) は平成28年度で1,982件 (月平均165件) 算定した。

図2 褥瘡件数

□持込 ■新規

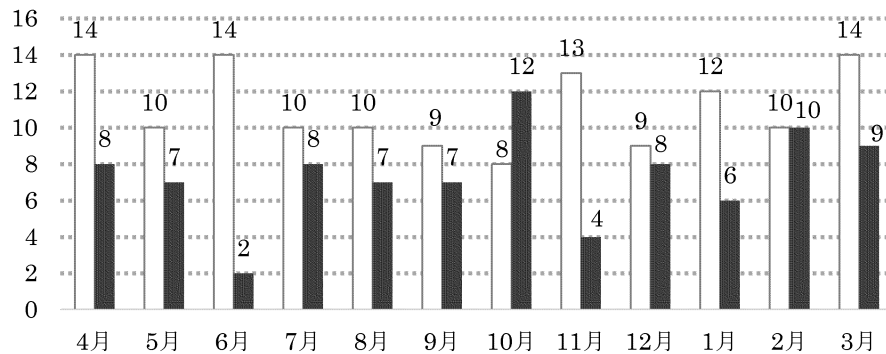
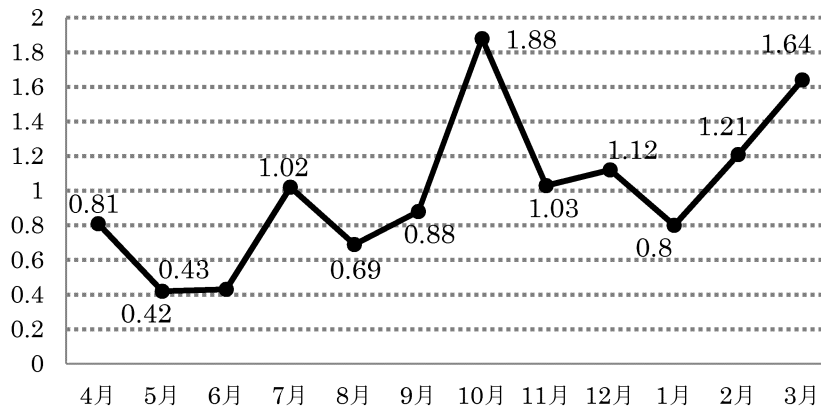


図3 褥瘡推定発生率 (%)



(※) 褥瘡推定発生率

$$\frac{(\text{調査日に褥瘡を保有する患者数} - \text{入院時すでに褥瘡を保有していた患者数})}{\text{調査日の施設入院患者数} \times 100}$$

平成 28 年度の体圧分散寝具の稼働率は 96.9%であった。

平成 28 年 11 月 22 日に、委員長と委員である褥瘡対策専従看護師 1 名による勉強会を開催した。『MDR P U (医療関連機器圧迫創傷)』をテーマとし、118 名の職員が参加した。

#### 4 来年度の課題

体圧分散用具を有効に活用し、引き続き褥瘡発生ゼロを目指していきたい。また、体圧分散用具やクッションの管理および更新を適切に行っていく。さらに、褥瘡カンファレンスや研修、勉強会の実施により、職員のスキルアップと知識の向上を図っていきたい。

(文責 津嶋 友央)



## ■クリニカルパス委員会

### 1 スタッフ

#### 【委員会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副委員長	森本 康江 (4 B病棟)
委員	中野 真範 (消化器内科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	山田 崇之 (循環器内科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	勝又 祐子 (7 B病棟)
委員	小坂 裕介 (薬剤科)	委員	島田 英介 (医事課)
事務局	佐野 元美 (医事課)	事務局	岡本 功 (医事課)

#### 【クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副部会長	勝又 祐子 (7 B病棟)
副部会長	小林 二十美 (5 A病棟)	部員	他 25 名

#### 【化学療法クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副部会長	森本 康江 (5 B病棟)
部会員	13 名		

#### 【地域連携クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (手術管理科・外科)	部会員	7 名

### 2 開催回数

【委員会】 12 回 (毎月 1 回、第 1 金曜日)

【クリニカルパス部会】 11 回 (毎月 1 回、第 2 火曜日)

【化学療法クリニカルパス部会】 5 回 (5 月 27 日・7 月 1 日・7 月 29 日・9 月 30 日・  
1 月 27 日、原則第 4 金曜日)

【地域連携クリニカルパス部会】 0 回

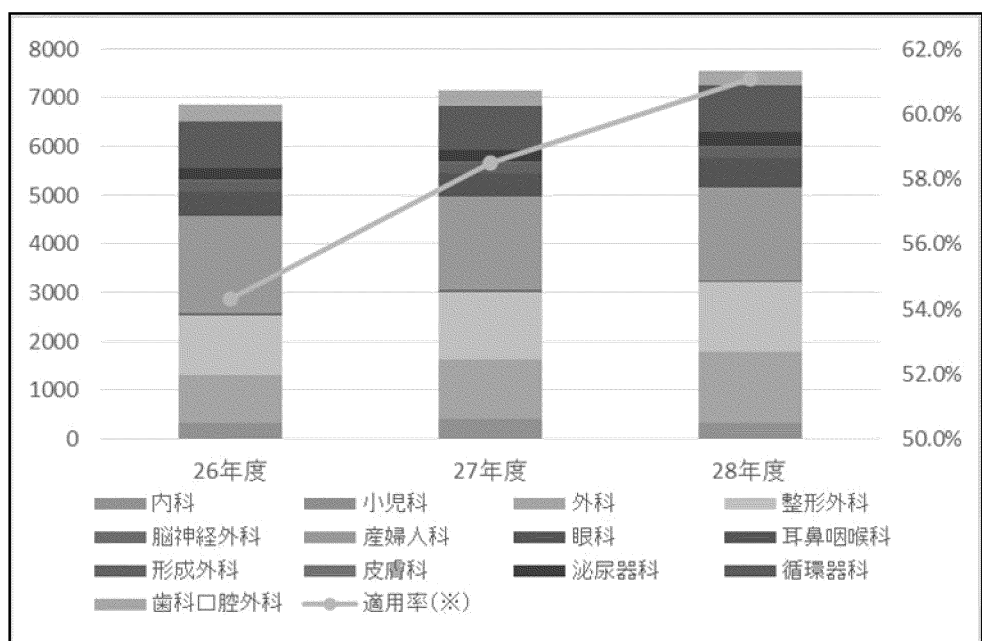
### 3 平成 28 年度の取組実績

5 月 10 日、10 月 11 日、2 月 14 日の 3 回にわたって、クリニカルパス大会を開催し、クリニカルパスの基準や、バリエーション分析についての講演を行った。

平成 28 年度に適応したクリニカルパスは 7,554 件であり、26 年度から 3 年間の適応件数とその推移は表および図に示す通りである。

クリニカルパス適用件数				
	26年度	27年度	28年度	平均適用
内科	305	391	293	330
小児科	24	11	45	27
外科	988	1236	1464	1229
整形外科	1220	1371	1414	1335
脳神経外科	47	42	35	41
産婦人科	1984	1915	1916	1938
眼科	241	229	254	241
耳鼻咽喉科	276	257	350	294
形成外科	222	216	223	220
皮膚科	17	19	14	17
泌尿器科	249	258	294	267
循環器科	943	878	956	926
歯科口腔外科	334	327	296	319
総計	6850	7150	7554	7185
適用率(※)	54.3%	58.5%	61.1%	58.0%

※ クリニカルパス適用率＝クリニカルパス適応件数÷電子カルテ上入院件数×100



#### 4 来年度の課題

- ・クリニカルパスの管理・整備体制を充実させる
- ・アウトカムを Basic Outcome Master に置き換える
- ・地域がん診療病院として、地域連携パスの体制整備について更なる協議を行う

(文責 良元 和久)

## ■病院機能改善委員会

### 1 スタッフ

#### (1) 全体会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	阪本 宏志 (ICU, 循環器内科)	委員★	良元 和久 (手術室、5 B、外科)
委員★	後藤 博一 (3 B, 泌尿器科)	委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長, 4 A, 産婦人科)
委員	日馬 由貴 (4 B, 小児科)	委員	重田 泰史 (5 A, 耳鼻咽喉科)
委員	山城 秀樹 (6 A, 糖尿病・内分泌・血液内科)	委員★	高橋 康人 (6 B, 腎臓内科)
委員	銭谷 大 (7 A, 循環器内科)	委員	中野 真範 (7 B, 消化器内科)
委員	加藤 努 (3 C, 整形外科)	委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長, 腎臓内科)	委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)
委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科)
委員	織井 恒安 (心臓血管外科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	梶本 徹也 (外科)	委員	平川 正彦 (形成外科)
委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長, 脳神経外科)	委員	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	藤谷 暢子 (眼科)	委員	松井 洋 (放射線科)
委員	井上 恒佳 (麻酔科)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員★	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	西田 英明 (臨床工学科)	委員★	鈴木 英昭 (臨床検査科)
委員	小俣 朋子 (栄養科)	委員★	中村 公美 (リハビリテーション科)
委員	植松 和子 (集中治療室)	委員	小林 由美 (手術室)
委員	今野 美枝子 (3 B病棟)	委員	水野 博代 (4 A病棟)
委員	森本 康江 (4 B病棟)	委員	勝又 千壽子 (5 A病棟)
委員	松山 早登美 (5 B病棟)	委員	大塚 君子 (6 A病棟)
委員	齋藤 正美 (6 B病棟)	委員	勝山 弘子 (7 A病棟)
委員	高井 みさ子 (7 B病棟)	委員	野澤 里美 (3 C病棟)
委員★	北島 美鈴 (外来A)	委員	白戸 幸子 (救急外来)
委員	齋藤 幸子 (医事課 (地域連携室))	委員	田中 稔 (医療安全対策室)
委員★	田中 慶子 (外来A)	委員★	勝亦 由美 (外来C)
委員★	渡邊 かおる (集中治療室)	委員★	羽二生 朱美 (4 B病棟)
委員★	秋山 ゆかり (5 A病棟)	委員★	齋藤 薫美 (6 B病棟)
委員★	戸塚 美晴 (7 B病棟)	委員★	齋藤 洋実 (3 C病棟)
委員★	深澤 公保 (病院総務課)	委員★	中川 貴裕 (病院総務課)
委員★	寺田 和子 (医事課)	事務局	木内 啓人 (病院経営課)

## (2) 定例会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	18名 (★は定例会委員を兼務)		

## 2 開催回数

- (1) 全体会：0回
- (2) 定例会：12回（毎月1回、第3火曜日）

## 3 平成28年度の取組実績

- (1) 病院機能評価B評価の項目に関する取組状況確認
- (2) 待ち時間集計報告（毎月）
- (3) 患者さんアンケート調査の実施（7月12日～15日）
- (4) 職員満足度調査の実施（10月11日～11月4日）
- (5) チーム医療評価の実施
- (6) 中央図書館より図書の譲受
- (7) 基本スケジュールの裏面活用
- (8) 富士市立中央病院勤務医の負担軽減に資する計画、看護師の負担軽減及び処遇の改善計画の改正
- (9) 部署別年度目標の管理
- (10) 新改革プラン策定に係る目標値の設定

## 4 来年度の課題

平成30年度の病院機能評価受審に向け、引き続き課題に対する進捗状況を管理していくとともに、全体会を開催することで、医療の質向上に対する職員の意識をさらに高めていく。また、患者さんアンケート調査及び職員満足度調査の結果から課題を把握し、課題解決に向けて積極的に改善策を検討していきたい。

(文責 遠藤 さよ子)

## ■NST委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	小林 由美 (手術室)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員	熊谷 祐 (外科)
委員	市原 恒平 (外科)	委員	園田 章太 (脳神経外科)
委員	佐野 僚子 (臨床検査科)	委員	三澤 延司 (薬剤科)
委員	木元 慎一郎 (薬剤科)	委員	阿部 一仁 (薬剤科)
委員	小俣 朋子 (栄養科)	委員	關 恭子 (栄養科)
委員	古郡 朝子 (栄養科)	委員	大山 実希 (栄養科)
委員	田中 弘美 (リハビリテーション科)	委員	梅原 健人 (リハビリテーション科)
委員	長橋 あゆみ (医療技術科)	委員	斉藤 洋実 (3C病棟)
委員	鈴木 早苗 (4A病棟)	委員	遠藤 里花 (6A病棟)
委員	芳野 由規子 (7A病棟)	委員	勝又 祐子 (7B病棟)
委員	井出 悦子 (5A病棟)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
ワグナーバー	平川 正彦 (形成外科)	事務局	佐野 元美 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

### 2 開催回数

11回 (毎月1回、第3木曜日。8月は除く)

### 3 平成28年度の実績

#### ①チーム活動

栄養評価・病院食改善チーム、摂食嚥下口腔ケアチーム、褥瘡対策チーム (褥瘡対策委員会) の3チームが日々活動しており、月に1度の委員会において、チーム活動報告、情報交換及び症例検討等を行っている。

#### [栄養評価・病院食改善チーム]

- ・毎週火曜日に栄養科でのカンファレンス及び病棟回診を行っている。

平成28年度 NST 回診 延べ524人 月平均43.7人

#### [摂食嚥下口腔ケアチーム]

- ・毎月第2木曜日、第4水曜日に回診を行っている。月に1度勉強会を行っている。

平成28年度回診 延べ40人 月平均3.3人

[褥瘡対策チーム（褥瘡対策委員会）]

※褥瘡対策委員会の頁で報告

②全職員対象のNST勉強会の開催

開催日	内 容	講 師	参加者
H28. 6. 1	栄養評価の方法について	外科 熊谷 祐医師	76名
H28. 9. 13	摂食・嚥下のケアと栄養管理	栄養科 大山 実希栄養士 井出 悦子看護師 長橋 あゆみ歯科衛生士 田中 弘美言語聴覚士	103名
H28. 11. 2	ADL改善・早期退院を目指す リハビリ栄養	リハビリテーション科 梅原 健人理学療法士	79名
H29. 2. 1	静脈栄養について	大塚製薬	69名

③関係学会等での演題発表

平成29年2月25日 第57回 静岡リハビリテーション懇話会

「職種間の壁を越えて 目指せ！チームアプローチ」

発表者 梅原 健人

4 来年度の課題

院内における「NST」の役割や重要性を更に広めるために、引き続きNST勉強会の開催を行っていきたい。また、各チーム活動の充実を図り、症例検討やカンファレンス等を積極的に行うとともに、NST専門療法士資格取得者を増員していきたい。

(文責 坪井 一人)

## ■輸血療法委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長(※)	長峰 誠一郎 (臨床検査科)
委員	織井 恒安 (心臓血管外科)	委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)
委員	井上 恒佳 (麻酔科)	委員	谷田部 沙織 (外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	園田 章太 (脳神経外科)
委員	大塚 君子 (6 A病棟)	委員	柘植 範子 (5 B病棟)
委員	松田 祐平 (薬剤科)	委員	岡本 功 (医事課)
委員	大野 真一 (臨床検査科)	外部委員	佐野 龍将 (日本赤十字社)

(※)事務局 長峰 誠一郎 (臨床検査科)

### 2 開催回数

6回 (隔月、第3火曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

- ・輸血管管理料Ⅰ、適正使用加算を維持した
- ・血液製剤の使用量、輸血後感染症検査実施率、自己血の実績を報告した
- ・輸血業務手順書を改訂した
- ・輸血業務に関連するインシデントの解析と改善方法を検討した
- ・新人看護師研修にて講義を行った
- ・輸血後感染症検査の運用に病歴室が加わった

#### 血液製剤使用量の推移

種別	単位	26年度	27年度	28年度	平成28年度 F/M比=0.34 (※) A/M比=1.53 (※)
赤血球製剤	単位	6,053	5,536	6,189	
凍結血漿	単位	1,568	1,119	2,090	
血小板製剤	単位	9,600	6,640	7,710	
アルブミン(A)	g	27,000	27,400	28,463	

※輸血管管理料Ⅰ、輸血適正使用加算の条件はF/M：0.54未満、A/M：2.0未満であること

### 4 来年度の課題

- ①血液製剤の適正使用推進
- ②医師への正しい業務手順の周知
- ③I&A施設認定更新

(文責 藤井 常宏)

## ■医療安全管理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (医療安全管理統括責任者)	副委員長	田中 稔 (医療安全対策室長)
委員	良元 和久 (手術室運営委員長)	委員	藤井 常宏 (救急室運営委員長)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	松山 早登美 (リスク担当看護長)
委員	井出 宣孝 (薬剤科長兼中央放射線科技師長)	委員	落合 敏明 (医薬品安全管理責任者)
委員	西田 英明 (医療機器安全管理責任者)	委員	石川 隆之 (臨床検査科技師長)
委員	白川 安俊 (病院総務課長)	委員	森 育洋 (医事課長)
事務局	医療安全対策室		

#### リスクマネジメント部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	田中 稔 (医療安全対策室長)	副部会長	遠藤 泰彦 (病理診断科)
部員	11名		

#### 医薬品部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	落合 敏明 (医薬品安全管理責任者)	部員	7名

#### 医療機器部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	西田 英明 (医療機器安全管理責任者)	副部会長	池谷 幸一 (中央放射線科)
部員	8名		

### 2 開催回数

- (1) 医療安全管理委員会 12回 (毎月1回、最終金曜日)
- (2) 医療安全カンファレンス 3回
- (3) リスクマネジメント部会 12回 (毎月1回、第3木曜日)
  - ・薬剤・製剤グループ 12回 (毎月1回、第2水曜日)
  - ・転倒転落グループ 12回 (毎月1回、第2火曜日)
  - ・5Sグループ 12回 (毎月1回、第1水曜日)
- (4) 医薬品部会 1回
- (5) 医療機器部会 4回



### 3 平成 28 年度の取組実績

#### (1) 心肺蘇生講習会開催

91 名に実施した。

#### (2) リスクマネジメント部会

- ・ RM だよりの発行 12 回
- ・ 医療安全推進週間（平成 28 年 11 月 20 日～26 日）の活動  
「誤薬防止」をテーマに標語を募集し、応募総数 246 件から最優秀標語を職員の  
名札に入れ医療安全の意識高揚に努めた。
- ・ 医療安全研修
  - ①患者さんと共にすすめる医療安全  
3 回開催し参加人数のべ 514 名、参加率 59.7%（全職員）である。
  - ②深部静脈血栓症予防  
2 回開催し参加人数のべ 306 名、参加率 43.7%（医療従事者）である。

#### (3) 医薬品部会

- ・ 研修会 2 回
  - ①輸液ポンプ類使用方法及び輸液注入量に影響する薬剤について（共催）
  - ②インスリン注射部位に発生するしこり

#### (4) 医療機器部会

- ・ 医療機器安全使用のための講習会 3 回
  - ①人工呼吸器準備・ランニング・動作確認
  - ②NPPV(V60)基本的操作・グラフィックの見方
  - ③輸液ポンプ類使用方法及び輸液注入量に影響する薬剤について（共催）

#### (5) 静岡県病院協会医療安全管理シンポジウム（東部地区）

- ・ 当番病院として企画・運営した。参加人数のべ 125 名である。

### 4 来年度の課題

- ・ 院内心肺蘇生講習会を、AHA2015 に沿ったものとして再度全職員に対して行なう。  
その院内インストラクター養成のための BLS コース開催を外部の公認組織へ依頼  
しており、来年度早期に実施する。
- ・ 院内全死亡例について診療経過を確認し、事故調査委員会開催を検討する。
- ・ 院内医療機器の登録を全機器登録に向けて継続する。
- ・ 日常業務の問題解決に医療安全カンファレンスの開催を増やしていく。

（文責 諸岡 暁）

## ■緩和ケア委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	大塚 君子（6 A病棟）
委員	鳥巢 勇一（消化器内科）	委員	市原 恒平（外科）
委員	外岡 雄二（精神神経科）	委員	川口 敬（薬剤科）
委員	中村 公美（リハビリテーション科）	委員	花崎 久美子（外来）
委員	柘植 範子（5 B病棟）	委員	村松 由貴子（外来）
委員	尾崎 悦子（3 B病棟）	委員	小林 宏美（ICU）
委員	江村 宏子（医事課（地域連携室））	事務局	岩垣 哲也（医事課（地域連携室））

### 2 開催回数

12回（毎月1回、第2木曜日）

### 3 平成28年度の取組実績

定例会による緩和ケア関連の検討や毎週実施する病棟回診に委員会スタッフ全員で取り組んだ。また、「地域がん診療病院」として「緩和ケアマニュアル」の改定を継続し、間もなく完成を迎えようとしている。

院内への啓発と全スタッフのスキルアップ及び共通認識を持つことを目的として、PEACE（日本緩和医療学会・緩和ケアプログラム）を用いた勉強会を定期開催し、今年度は委員が講師を務める回を設けるなど新しい方法に取り組んだ。また、専門医師を迎えての講演会など、多くの方の参加をいただくことができた。

在宅療養においても緩和ケアニーズが増す中、このような取り組みにより連携の強化を図ることができればと考えている。



〔緩和ケア勉強会・グループワークの様子〕

### 4 来年度の課題

- ・緩和ケアマニュアルの整備と周知
- ・病棟回診及び勉強会の充実と講演会の開催
- ・必要な薬剤、医療器具の導入
- ・地域がん診療連携拠点病院との緩和ケア関連の連携強化

（文責 梶本 徹也）

## ■広報委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	道躰 隆行（外科）～8月
副委員長	井出 正俊（歯科口腔外科）9月～	委員	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	手老 真弓（臨床検査科）
委員	鍋島 雄和（中央放射線科）	委員	竹川 圭亮（リハビリテーション科）
委員	飛澤 加奈（薬剤科）	委員	北島 美鈴（外来A）
委員	東川 真理（4B病棟）	委員	杉山 裕亮（病院経営課）
委員	加瀬 真己子（病院総務課）	委員	前嶋 健二（医事課）
事務局	角入 あゆ美（病院経営課）		

### 2 開催回数

4回（6月、9月、12月、3月）

### 3 平成28年度の取組実績

#### ①広報誌部会の開催及び病院だよりの発行

当院では平成20年7月から病院だよりの発行を行っている。病院だよりの発行回数は年4回（4月、7月、10月、1月）、発行部数は92,000部で富士市内の全世帯に配布している。病院だより編集のために広報誌部会を開催し、当院の診療情報や健康及び疾患予防に関する情報などを広く市民の皆さまや患者さんに伝えるため、掲載記事の選定や内容について議論を行った。

#### ②ウェブサイト部会の開催及びウェブサイトの管理

情報量の多さや速報性といったウェブサイトのメリットを生かした情報発信を行うため、ウェブサイト部会を開催し、主に更新内容やページ構成について確認・検討した。特にトップページについては、訪問者にとって更新された情報が確認しやすく魅力的なサイトと認識していただけるよう、トップページ記事を3か月ごとに更新するなどの充実を図った。

### 4 来年度の課題

病院だよりでは、富士保健医療圏での当院の役割を市民の皆さまに理解していただけるような記事を掲載していく。ウェブサイトについては、CMSの更新が予定されているため、アクセシビリティに配慮したウェブサイトを再構築し、利用者のニーズに即した情報発信を迅速に行うことができる環境を整える。

（文責 杉沢 利次）

## ■食堂・売店検討委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	白川 安俊（病院総務課）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	池田 琢（臨床検査科）
委員	澤口 信孝（中央放射線科）	委員	岩本 一徳（薬剤科）
委員	古郡 朝子（栄養科）	委員	木内 啓人（病院経営課）
委員	池邊 貴子（売店職員）	委員	小川 美香（食堂職員）
事務局	中川 貴裕（病院総務課）	事務局	佐山 侑希（病院総務課）

### 2 開催回数

3回

### 3 平成 28 年度の実績

- ・ 食堂および売店メニューの検討
- ・ 食堂および売店の事業計画を審議し翌年度 1 年間の継続を承認

### 4 来年度の課題

平成 29 年度も食堂・売店の運営や改善について検討を行い、利用者に良質なサービスを提供する施設となるよう取り組んでいく。

（文責 木村 哲夫）

## ■経営改革推進委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	重田 泰史（耳鼻咽喉科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	落合 敏明（薬剤科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	野澤 里美（3C病棟）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	玉舟 正弥（病院経営課）		

### 2 開催回数

12回（毎月第4水曜日）

### 3 平成28年度の取組実績

#### ①富士市立中央病院新改革プランの策定

総務省から「新公立病院改革ガイドライン」により、新公立病院改革プランの策定が求められた。

第二次中期経営改善計画を基に、設定値を見直すとともに新たな設定値を加え「富士市立中央病院新改革プラン」を策定した。

#### ②単年度事業計画書について

平成26年度からの5カ年計画として策定した第二次中期経営改善計画を実効性のあるものにするため、平成28年度事業計画書を作成し院内周知するとともに、平成27年度事業計画の自己評価を行った。

### 4 来年度の課題

富士市立中央病院新改革プラン及び第二次中期経営改善計画に基づく、平成28年度事業計画の自己評価及び平成29年度事業計画の各事業の進行管理を行うとともに、富士市立中央病院経営懇話会による外部評価を実施し、結果を公表する。

また、院内の関係所属、委員会と協力しながら、「地域医療支援病院の承認」を目指していく。

（文責 柏木 秀幸）

## ■化学療法委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委員	良元 和久 (外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	川口 敬 (薬剤科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	北島 美鈴 (外来)
委員	西家 裕子 (外来B)	委員	遠藤 里花 (6 A病棟)
委員	村松 由貴子 (がん化学療法認定看護師)	委員	佐野 みどり (7 B病棟)
委員	渡辺 まゆみ (3 B病棟)	委員	小林 二十美 (5 A病棟)
事務局	島田 英介 (医事課)	事務局	佐野 元美 (医事課)

### 2 開催回数

19回 (毎月1回、第4火曜日) 定期開催 12回 臨時開催 7回

### 3 平成28年度の取組実績

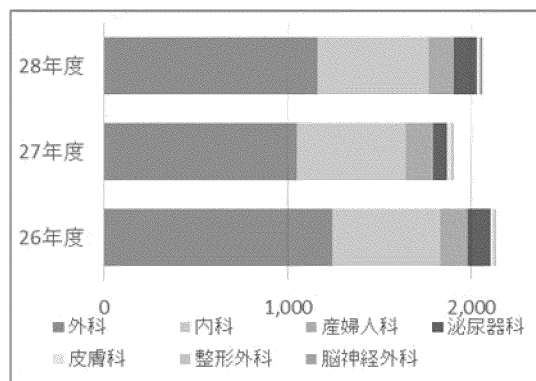
化学療法委員会では年間を通して新規レジメンの検討・承認、レジメンの見直し、通院治療室運用についての検討、化学療法クリニカルパス作成のためのクリニカルパス委員会との連携を行った。新規レジメンは今年度29種類の検討・承認を行った。また電子カルテ更新のためのワーキンググループ、尿測・蓄尿による暴露対策について、新規薬剤勉強会の開催、制吐剤の変更について、抗がん剤における曝露対策マニュアル整備、レジメン集について検討を行った。

### 4 来年度の課題

地域がん診療病院の要件となる拠点病院と連携したレジメン審査とレジメン集の整備、がんセンターとの連携、副作用対策を検討課題とする。

科別レジメン適用件数

診療科	26年度	27年度	28年度
外科	1,241	1,048	1,164
内科	587	596	606
産婦人科	152	145	137
泌尿器科	122	79	124
皮膚科	20	24	16
整形外科	10	13	1
脳神経外科			10
総数	2,132	1,905	2,058



(文責 藤井 常宏)

## ■診療材料検討委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	白川 安俊 (病院総務課)
委員	山城 秀樹 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	阿部 恭平 (外科)	委員	嶺 崇文 (整形外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	松田 佑平 (薬剤科)	委員	杉山 伸一 (中央放射線科)
委員	山元 義雄 (臨床工学科)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	小林 由美 (手術室)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	増田 満伯 (感染対策室)	委員	宇佐美 雄二 (病院経営課)
委員	杉山 彩 (医事課)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
事務局	仲澤 実加 (病院総務課)	事務局	佐山 侑希 (病院総務課)

### 2 開催回数

12回 (毎月1回、第2月曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

#### ①新規診療材料等の採択に関する検討

- ・新規採用 70件 (規格違い商品含む)

#### ②SPD委託業者により価格削減提案された商品採用の承認 等

- ・切替提案商品 (規格違い含む) 95件
- ・現行品削減件数 185件
- ・年間削減試算額 1,777万円

### 4 来年度の課題

引続き、新規採用診療材料等の適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

(文責 鈴木 康之)

## ■ ICU運営委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志 (循環器内科)	副委員長	野田 靖人 (脳神経外科)
副委員長	植松 和子 (集中治療室)	委員	織井 恒安 (心臓血管外科)
委員	高橋 康人 (腎臓内科)	委員	坪井 一人 (外科)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)	委員	渡邊 かおる (集中治療室)
委員	平元 いずみ (集中治療室)	委員	小林 宏美 (集中治療室)
委員	渡邊 葉子 (集中治療室)	事務局	島田 英介 (医事課)
事務局	杉山 彩 (医事課)		

### 2 開催回数

6回 (第3月曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

#### (1) ICUの運営

ICU モニターの更新・電子カルテ更新・診療材料 (バイトブロック)・満床時の対応・医療機器申請などについて検討を行った。

#### (2) 統計報告

【表1】 ICU科別月別入室患者数

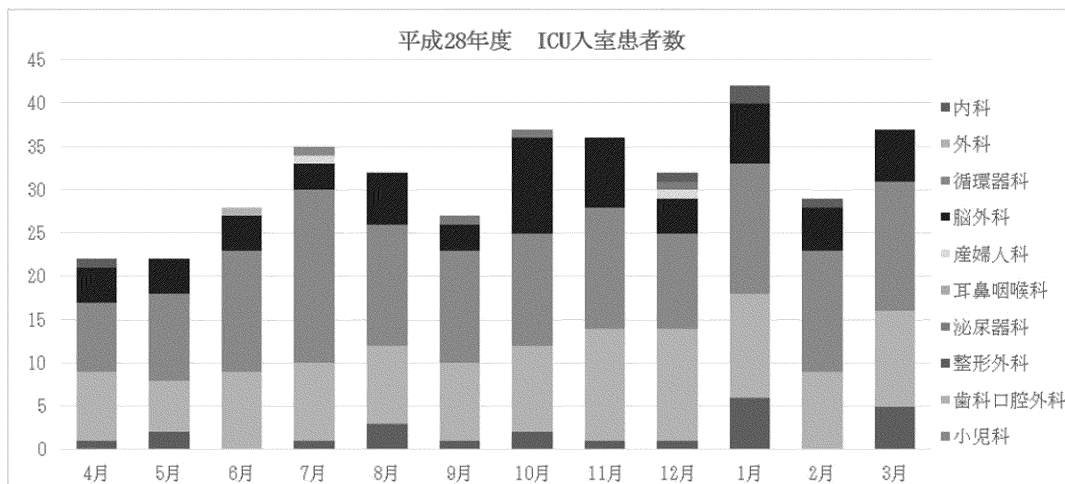
【表2】 ICUにおける急性血液浄化件数

【表3】 ICUにおけるIABP、PCPS件数

【表1】 ICU科別月別入室患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	1	2		1	3	1	2	1	1	6		5	23
外科	8	6	9	9	9	9	10	13	13	12	9	11	118
循環器科	8	10	14	20	14	13	13	14	11	15	14	15	161
脳外科	4	4	4	3	6	3	11	8	4	7	5	6	65
産婦人科				1					1				2
耳鼻咽喉科													0
泌尿器科						1	1		1				3
整形外科	1								1	2	1		5
歯科口腔外科			1										1
小児科				1									1
月合計	22	22	28	35	32	27	37	36	34	42	29	37	381





単位:人

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CHDF	2	2	3	4	4	4	6	6	6	3	1	3	44
PMX													
PE													
月合計	2	2	3	4	4	4	6	6	6	3	1	3	44

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
IABP	3	1	1	5	4	2	2	3	1	1	2	2	27
PCPS	1		1	1				1			1		5
月合計	4	1	2	6	4	2	2	4	1	1	3	2	32

4 来年度の課題

セントラルモニターの更新について。

(文責 阪本 宏志)

## ■医療事故調査委員会

---

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	内科系医師 (その都度指名)
委員	外科系医師 (その都度指名)	委員	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	白川 安俊 (病院総務課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	田中 稔 (副看護部長兼医療安全対策室長)
事務局	深澤 公保 (病院総務課)		

### 2 開催回数

1回 (案件により随時開催)

### 3 平成28年度の取組実績

医療事故についての具体的な調査検討を目的とした委員会を1回開催し、1件の症例についての検討を行い、それぞれの関係部署に体制の見直しを要請した。

### 4 来年度の課題

より積極的に医療事故の検証に取り組む。引続き一定程度以上の医療事故およびオカレンスレポートからも事例を選んでいく。

(文責 諸岡 暁)

## ■医療事故対策委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	小野寺 昭一（院長）	副委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	杉沢 利次（事務部長）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	田中 稔（副看護部長兼医療安全対策室長）
事務局	深澤 公保（病院総務課）		

### 2 開催回数

なし（案件により随時開催）

### 3 平成 28 年度の取組実績

医療事故対策委員会は、緊急対応を必要とする医療事故が発生した場合、その事故に係わる当院の方針を決定することを目的として、平成 21 年 9 月に設置された。

平成 28 年度は、委員会を開催すべき医療事故はなかった。

### 4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、速やかに委員会を開催し、事実関係に基づき最善の方針を決定していく。

（文責 柏木 秀幸）

## ■病院情報システム運営委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	加藤 努（整形外科）
委員	津嶋 友央（皮膚科）	委員	勝山 直彦（歯科口腔外科）
委員	加藤 寛史（薬剤科）	委員	長峰 誠一郎（臨床検査科）
委員	清水 則雄（中央放射線科）	委員	大山 実希（栄養科）
委員	幾島 邦人（リハビリテーション科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	勝又 千壽子（5 A病棟）	委員	滝澤 佐織（外来C）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	前嶋 健二（医事課）
事務局	木ノ内 宏治（病院経営課）	事務局	杉山 裕亮（病院経営課）

### 2 開催回数

12回（月1回、第1月曜日）

### 3 平成28年度の取組実績

平成28年度は、12月に電子カルテシステム及びその他の部門システムの更新代替を実施し、これに関する議案が委員会での審議の中心となった。

- ・電子カルテシステム更新に伴うスケジュール管理及びワーキンググループの進め方について審議
- ・システム委員会での検討事項について審議、部会の設置
- ・医師代行入力の権限委譲の範囲について審議
- ・眼科 c-note の取扱いについて審議
- ・ワーキンググループの進捗状況報告
- ・操作教育、更新リハーサルの実施
- ・電子カルテ更新後の稼動状況報告
- ・旧電子カルテシステム撤去、システム室移動について報告

### 4 来年度の課題

12月に電子カルテシステムの更新が完了し本稼動を開始した。来年度は電子カルテシステム及びその他の部門システムの安定した稼動を目指す。また、本年度に引き続き、院内の情報化環境整備に努めていく。

（文責 良元 和久）

## ■血液浄化・透析機器安全管理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	高橋 康人 (腎内科)
委員	植松 和子 (集中治療室)	委員	齋藤 正美 (6 B病棟)
委員	田中 慶子 (外来A)	委員	齋藤 薫美 (6 B病棟)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)	事務局	前嶋 健二 (医事課)
事務局	杉山 彩 (医事課)		

### 2 開催回数

12回 (毎月1回、第3水曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

- ・毎月の委員会において、透析室水質管理表の報告 (表1)、急性血液浄化及び維持透析等の実施状況の確認を行った。
- ・透析機器を含む各種医療機器の購入・更新・保守について適宜検討を行った。
- ・災害時における拠点病院としての役割や透析患者への対応について確認を行った。
- ・電子カルテ更新における透析部門システムの導入・運用について検討し、導入を行った。

血液透析施行患者数	295人	(血液透析施行件数 2,776件)
腹膜透析診療患者数 (年度末)	17人	
うち血液透析+腹膜透析併用療法患者数	1人	
維持透析導入患者数	97人	(血液透析 94人、腹膜透析 3人)
急性血液浄化施行患者数	64人	(84件)
うち持続血液濾過透析	48人	(48件)
エンドトキシン吸着療法	4人	(4件)
二重濾過血漿交換	6人	(19件)
血漿交換	3人	(10件)
白血球除去療法	2人	(2件)
血漿吸着療法	1人	(1件)

表1－透析室水質管理表（平成28年度）

	RO		セントラル	
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)
4月	0.00382	0	0.00116	0
5月	0.00732	0	0.00066	0
6月	0.00586	0	0.00164	0
7月	0.00411	0	0.00121	0
8月	0.00634	0	0.00211	0
9月	0.00324	0	0.00410	0
10月	0.03783	2	0.00085	0
11月	0.00687	0	0.00467	0
12月	0.02105	0	0.00563	0
1月	0.00721	0	0.00164	0
2月	0.00652	0	0.00222	0
3月	0.00644	0	0.00362	0

	コンソール		コンソール		コンソール No.
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	
4月	0.00066	0	0.00066	0	⑦ ⑧
5月	0.00066	0	0.00066	0	⑨ ⑩
6月	0.00075	0	0.00084	0	① ②
7月	0.00077	0	0.00078	0	③ ④
8月	0.00073	0	0.00089	0	⑤ ⑥
9月	0.00063	0	0.00078	0	⑦ ⑧
10月	0.00063	0	0.00063	0	⑨ ⑩
11月	0.00053	0	0.00085	0	① ②
12月	0.00063	0	0.00063	0	③ ④
1月	0.00052	0	0.00052	0	⑤ ⑥
2月	0.00073	0	0.00073	0	⑦ ⑧
3月	0.00077	0	0.00065	0	⑨ ⑩

4 来年度の課題

- ・老朽化の進んでいる機器、耐用年数超えの機器の更新を行っていく。（コンソール・スケールベッド等）
- ・MCA 無線の利用を含めた、災害時の透析体制について検討していく。
- ・新規導入患者の増加への対応について検討していく。（文責 笠井 健司）

## ■周産期医療機器管理委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	千葉 浩介 (小児科)
委員	水野 博代 (4 A病棟)	委員	森本 康江 (4 B病棟)
委員	佐山 侑希 (病院総務課)	委員	西田 英明 (臨床工学科)
委員	勝間田 賢 (臨床工学科)	事務局	臨床工学科

### 2 開催回数

1回

### 3 平成 28 年度の取組実績

- 1) 周産期に係わる医療機器（主に保育器、分娩監視装置）の更新計画に基づき医療機器の申請を行った。
- 2) 周産期に係わる医療機器の保守点検実施及び保守費用申請。
- 3) 閉鎖式保育器 2 台購入。

### 4 来年度の課題

- 1) 委員会から要望した機器は、病院全体の医療機器配備計画のもと、徐々に整備されている。今後も引き続き「選ばれる病院」方針に沿った、医療機器の適正な申請と運用を行っていきたい。
- 2) 周産期医療の安心・安全な提供ができるように委員会活動を行っていく。

(文責 鈴木 康之)

## ■地域連携運営委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	井出 宣孝 (診療技術部長)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	森 育洋 (医事課)
委員	齋藤 幸子 (医事課 (地域連携室))	事務局	岩垣 哲也 (医事課 (地域連携室))
事務局	小林 真紀子 (医事課 (地域連携室))		

### 2 開催回数

12回 (毎月1回、第3火曜日)

### 3 平成28年度の実績

- ・「地域がん診療病院」の指定を受け、要件の充足やがん患者サロンの充実を図った。また、静岡県立静岡がんセンターとの交流に積極的に取り組んだ。
- ・「地域医療支援病院」の承認を目指し、紹介率及び逆紹介率向上のための具体的な方策を検討し取り組んだ。
- ・富士市医師会と「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」を共同開催し、情報交換や症例検討を行った。
- ・病診連携をより推進する手段のひとつとして医師の顔写真入り紹介冊子を刊行し、医師会等に配付した。
- ・スムーズなFax予約への対応を心がけた。また、返書作成を「Human Bridge」のみとした返書管理により返書率の向上を図った。
- ・ふじのくにバーチャルメガホスピタル「ふじのくにねっと」について、開示件数、参照件数の増加を図った。
- ・地域連携の課題などをテーマとしたWeb研修会を開催した。

### 4 来年度の課題

- ・「地域医療支援病院」承認に向けた紹介率及び逆紹介率の維持、向上
- ・「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」の年間2回の開催
- ・紹介患者予約枠の稼働率の向上
- ・病診連携の推進のための返書率向上
- ・「地域がん診療病院」として指定要件の充足
- ・「医師紹介冊子」(平成29年度版)の発行
- ・「連携安心カード」、「ふじのくにねっと」の運用と普及啓発

(文責 鈴木 康之)



## ■患者サービス向上委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子(副院長兼看護部長)	副委員長	加藤 努(整形外科)
委員	外岡 雄二(精神神経科)	委員	阿部 愛(臨床検査科)
委員	望月 保子(薬剤科)	委員	大石 悦子(副看護部長)
委員	勝山 弘子(7A病棟)	委員	後藤 光子(外来D)
委員	滝澤 佐織(外来C)	委員	渡邊 裕子(地域連携室)
委員	村田 弘子(3B病棟)	委員	金森 清美(3C病棟)
委員	鈴木 裕子(病院総務課)	委員	川口 愛美(医事課)
委員	芥藤 美智代(ニチイ)	委員	酒井 ひとみ(ニチイ)～7月
委員	千須和 恵(ニチイ)8月～	事務局	角入 あゆ美(病院経営課)

### 2 開催回数

12回(毎月1回、第4木曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

- (1) 毎月開催される管理会議、院内連絡会議及び医局会におけるお礼状の報告
- (2) あいさつ運動(5月、9月、1月の各月3日間)
- (3) 院内掲示物巡回(6月23日)
- (4) 正面玄関南側花壇における花苗の植え替え(6月と11月に富士市花の会の協力を得て実施)
- (5) 正面玄関前広場花壇における花苗の植え替え(6月、11月)
- (6) 院内ギャラリーの運営

展示月	展 示 会 名	団 体 名	出展作品
4月	2015年富士民踊を絵にして!!	渡辺 勝子	日本画
5月	内藤恵子 パステルアート展	内藤 恵子	パステル画
6月	富士山写真展	渡辺 安雄	写真
7月	色鉛筆画同好会展示会	色鉛筆画同好会	色鉛筆画
8月	フォトクラブ天間写真展示会	フォトクラブ天間	写真
9月	ギャラリー「ARTS」～障がい児者の作品を気軽に展示する愉快的仲間たち～	ギャラリー「ARTS」	絵画・書・写真・カード

展示月	展 示 会 名	団 体 名	出展作品
10月	似顔絵	井芹 通	色鉛筆画
11月	芙蓉の丘通所リハビリクラフトクラブ	介護老人保健施設 芙蓉の丘	貼り絵
12月	日本画展示会（山田由子と仲間展）	山田 由子	日本画
1月	MOA美術館富士児童作品展	MOA美術館富士児 童作品展実行委員会	絵画・書
2月	MOA美術館富士児童作品展	MOA美術館富士児 童作品展実行委員会	絵画・書
3月	つるし飾り展示会	三浦 映子	つるし飾り

(7) 院内コンサート

- ・富士川ウインドアンサンブル（6月24日）
- ・元吉原ウインドアンサンブル（12月6日）

(8) 接遇研修 プロの接遇者に必要な5つのルール（11月7日）

講師：里岡美津奈 先生

(9) 正面玄関傘袋スタンド設置に関する検討、傘袋自動装着機「傘ぽん」の設置

(10) 正面玄関エアカーテンの設置、運転時間等の検討

(11) 接遇研修の充実に関する検討 ※市役所マナーブック改定版を配布予定

(12) 1階受付の朝の順番待ちについて検討、椅子の導入

(13) エスカレーター運行時間及び利用者の監視体制に関する検討

(14) カイゼン・チャレンジ富士のフリー提案に関する検討

4 来年度の課題

お礼状の報告、あいさつ運動、院内掲示物の巡回を引き続き実施する。花壇の管理を一部委託することで、きれいな状態をより長く維持できるようにする。院内コンサートについては、今年度、初めて富士川ウインドアンサンブルによるコンサートを開催し好評を得たため、来年度も元吉原ウインドアンサンブルと富士川ウインドアンサンブルの演奏により開催する。また、接遇研修を開催することで、患者サービスの向上に繋げていく。

(文責 遠藤 さよ子)

## ■学術活動推進委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	導躰 隆行（医局長：外科）～8月
副委員長	井出 正俊（医局長：歯科口腔外科）9月～	委員	坪井 一人（外科）
委員	大石 悦子（副看護部長）	委員	勝又 千壽子（5 A病棟）
委員	鈴木 和訓（中央放射線科）	委員	柴田 貴子（薬剤科）
委員	木内 啓人（病院経営課）	委員	岩垣 哲也（医事課（地域連携室））
委員	岡本 功（医事課）	事務局	秋山 英希（病院総務課）

### 2 開催回数

12回（毎月1回、第3水曜日）

### 3 平成28年度の取組実績

当院における学術活動の企画・立案・運営及び、学術に関する病院資産の有効活用を目的に活動した。

毎月開催した定例会では、学術活動のあり方を積極的に検討し、富士市医師会との共催開催である「第31回富士シンポジウム」、市民向けの主催事業「第13・14・15回市民公開講座」、開院記念式典と併せて開催している「第32回院内学術集会」を開催した。

なかでも、年2回定期開催している「市民公開講座」に関しては、回数を1回増やし、平成29年3月24日（金）に、富士市制施行50周年の記念事業として「第15回市民公開講座 脳脊髄液減少症を知っていますか」を追加開催し、115人の参加者に聴講していただくことができた。

また、病院情報資産である病院年報も継続して発行することができた。

### 4 来年度の課題

恒例事業として定着した「富士シンポジウム」、「市民公開講座」、「院内学術集会」に関しては、アンケート結果や頂いた意見を集約し、委員会内で検討を重ね、より良い事業展開を目指す。平成29年度以降も、「市民公開講座」に関しては、院外からの特別講師による講演のみに頼らず、必ず1回は院内から講師を起用し、当院で実際に行っている治療や手術法、健康管理に役立つ情報等を積極的に発信していく。

院内学術集会に関しては、診療部・診療技術部・看護部からの一般演題発表だけに留まらず、院内全体で取り組むべき課題等に対するシンポジウムを企画・立案し実行する。

また、病院年報についても、単なる病院概要や統計資料ではなく、当院の現状がわかりやすく伝わるよう改良を重ね、より良いものになるよう努めていく。

（文責 笠井 健司）

## ■病棟委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	河野 優（神経内科）
委員	石澤 将（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	小林 賢司（呼吸器内科）
委員	中野 真範（消化器内科）～1月	委員	伊藤 公博（消化器内科）2月～
委員	高橋 康人（腎臓内科）	委員	銭谷 大（循環器内科）
委員	織井 恒安（心臓血管外科）	委員	日馬 由貴（小児科）
委員	良元 和久（手術管理科・外科）	委員	加藤 努（整形外科）
委員	平川 正彦（形成外科）～8月	委員	赤石 渉（形成外科）9月～
委員	野田 靖人（脳神経外科）	委員	栗原 和生（皮膚科）
委員	松木 翔太郎（産婦人科）	委員	藤谷 暢子（眼科）
委員	黒田 健斗（耳鼻咽喉科）	委員	勝山 直彦（歯科口腔外科）
委員	石川 隆之（臨床検査科）	委員	井出 宣孝（診療技術部長）
委員	西田 英明（臨床工学科）	委員	小俣 朋子（栄養科）
委員	深澤 史朗（リハビリテーション科）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	植松 和子（集中治療室）
委員	水野 博代（4 A病棟）	委員	勝又 千壽子（5 A病棟）
委員	齋藤 正美（6 B病棟）	委員	高井 みさ子（7 B病棟）
委員	田中 慶子（外来A）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	木内 啓人（病院経営課）		

### 2 開催回数

12回（毎月1回、第2木曜日）

### 3 平成28年度の取組実績

各科の病棟配置及び病床配分について、毎月の病床利用率に基づき次年度の方針を検討した。年度後半は高い病床利用率が続いたため、配分数を上回って病床を利用している科に対して、適正な病床利用と退院調整を促した。また、平成28年12月の電子カルテシステム更新に合わせ、持参薬の取扱いや服薬管理等について運用の見直しを検討した。

### 4 来年度の課題

毎月の病床利用状況報告の内容を精査し、適正な病床利用と病床配分に向けて、職員が積極的に関われる環境を整える。

（文責 後藤 博一）

## ■女性医師等就労環境改善委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	秋山 直枝（小児科）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	岩崎 佐知子（臨床検査科）
委員	酒井 理香（中央放射線科）	委員	北島 美鈴（外来）
委員	野澤 里美（3C病棟）	委員	宇佐美 友紀（病院総務課）
事務局	鈴木 裕子（病院総務課）		

### 2 開催回数

7回（うち1回は講座）

### 3 平成28年度の取組実績

仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境の整備について、院内病児保育開所に向けての検討等を実施した。

#### 【委員会】

6回実施：平成28年5月18日（水）、7月20日（水）、10月15日（水）、  
12月16日（金）、平成29年1月18日（水）、3月29日（水）

内 容：病児保育の実施について、講座の開催について、キャリア支援シンポジウム参加 等

#### 【講演会】

日 時：平成29年2月15日（水）17:15～18:15

参加人数：52名

内 容：心と体の不思議な関係についてのお話

実践！セルフマッサージ、顔・肩・手・足

講 師：富士健康美容サロン 院長 渡邊 武文さん／渡邊 恵子さん

目 的：自身にマッサージを行う方法を学ぶことにより、日常の疲れやストレスから自分自身を解放し、仕事もプライベートも頑張れる自分になること。

### 4 来年度の課題

引き続き、当院におけるワークライフバランスの推進を図っていく。

（文責 伊藤 すみ子）

## ■外来委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	藤谷 暢子 (眼科)
委 員	藤井 常弘 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委 員	木村 哲夫 (呼吸器内科)
委 員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委 員	三川 秀文 (循環器内科)
委 員	秋山 直枝 (小児科)	委 員	梶本 徹也 (外科)
委 員	加藤 努 (整形外科)	委 員	平川 正彦 (形成外科)
委 員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委 員	栗原 和生 (皮膚科)
委 員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委 員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委 員	黒田 健斗 (耳鼻咽喉科)	委 員	松井 洋 (放射線科)
委 員	井上 恒佳 (麻酔科)	委 員	外岡 雄二 (精神神経科)
委 員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委 員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委 員	北島 美鈴 (外来看護長)	委 員	佐野 まり子 (外来B)
委 員	後藤 光子 (外来D)	委 員	白戸 幸子 (外来C)
委 員	鈴木 雅人 (臨床検査科)	委 員	高木 省一 (中央放射線科)
委 員	西田 英明 (臨床工学科)	委 員	中村 公美 (リハビリテーション科)
委 員	加藤 寛史 (薬剤科)	委 員	芹澤 広樹 (病院経営課)
委 員	白川 安俊 (病院総務課)	委 員	森 育洋 (医事課)
委 員	齋藤 幸子 (医事課(地域連携室))	事務局	寺田 和子 (医事課)
事務局	前嶋 健二 (医事課)		

### 2 開催回数

12回

### 3 平成28年度の取組実績

- ・電子カルテ更新に向けて、外来に関わる新システム及び既存システムのバージョンアップ等のデモによる検証や問題点を提示し、スムーズな外来診療に繋げるため協議した。
- ・形成外科完全紹介状制へ移行するにあたり必要事項について検討し、外傷患者対応フローの確認及び周知を図った。
- ・返書システム「ヒューマンブリッジ」及び文書作成に混在していた紹介状・返書様式を新様式に変更し、ヒューマンブリッジで作成するよう院内の統一を図り、正確な紹介率の算定に繋がった。
- ・近年訪日外国人が増加しており、今後益々外国人患者を受け入れる機会も増えることが予想されるため、言語等の問題点と課題を抽出した。

#### 4 来年度の課題

外来部門に係るあらゆる問題、課題を取り上げ、解決を図る。

外国人患者の対応について、他院の動向等を調査しつつ、翻訳タブレットの導入等継続して当院の方向性を協議していく。

地域医療支援病院の承認を目指し、紹介・逆紹介率の維持向上に努め、地域の医療機関との連携強化を図る。

(文責 笠井 健司)

## ■放射線安全管理委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	井出 宣孝 (中央放射線科)
委員	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員	岡田 和教 (中央放射線科)	委員	秋田 真弓 (中央放射線科)
委員	神田 直樹 (中央放射線科)	委員	白川 安俊 (病院総務課)
委員	中川 貴裕 (病院総務課)	委員	深澤 公保 (病院総務課)

- ・安全管理責任者：井出 宣孝
- ・放射線取扱主任者：遠藤 一弘
- ・放射線取扱主任者 (安全管理担当者)：岡田 和教、秋田 真弓、神田 直樹
- ・管理区域担当者：清水 則雄
- ・健康管理医：藤井 常宏
- ・施設管理責任者：白川 安俊
- ・施設管理担当者：中川 貴裕
- ・法令担当者：深澤 公保

### 2 開催回数

1回

### 3 平成 28 年度の取組実績

- ・放射線障害防止法および予防規程により定められた以下の項目を実施した。

個人被ばく線量測定	12回 / 年
健康診断	2回 / 年
環境測定	2回 / 年
自主点検 (放射線治療室、RI 室、X線撮影装置)	2回 / 年
定期教育訓練	1回 / 年
新規教育訓練	10回 / 年
放射線管理状況報告書提出	1回 / 年
保健所立入検査	1回 / 年
RI 使用予定届提出	1回 / 年

### 4 来年度の課題

平成 28 年度の医療監視で検査員より要望された、老朽化したラジオアイソトープ排水施設の設備改善の実現に向け、取組みを進めていく。

(文責 鈴木 康之)



## ■災害対策委員会

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	杉沢 利次 (事務部長)
委員	平川 正彦 (形成外科)	委員	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)	委員	高橋 康人 (腎臓内科)
委員	良元 和久 (手術管理科・外科)	委員	石川 隆之 (臨床検査科)
委員	井出 宣孝 (診療技術部長)	委員	落合 敏明 (薬剤科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	白川 安俊 (病院総務課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
委員	武吉 勇喜 (警備室)	外部委員	池田 益朗 (※)
事務局	深澤 公保 (病院総務課)	事務局	秋山 英希 (病院総務課)

(※) 水道技術管理者・水道工務課長

### 2 開催回数

12回 (毎月第1火曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

#### (1) 災害対策訓練の実施

- ・救護所訓練 (参加者23名、うち2名は医師会会員医師)

11月27日(日)、外部講師を招き、院内講師とともに診療部と看護部職員を対象とした救護所訓練を実施した。診療部は標準外傷診療コースのJATECに準じた外傷初期診療訓練を行い、看護部は2次トリアージ(理論と実習)と異なる階層への患者搬送訓練を行った。外傷初期診療訓練に関しては、富士市医師会会員医師の参加も可能とし、地域医師との技術共有及び連携強化を図った。患者搬送訓練に関しては、富士市消防救急隊員指導のもと、実際に階段での上下移動を行い、技術を身につけた。

#### (2) 政府訓練への参加

- ・平成28年度 大規模地震時医療活動訓練

8月6日(土)に、静岡県、山梨県、愛知県及び三重県を被災地と想定し実施された訓練に、当委員会事務局2名、DMAT隊員10名が参加した。県東部地域は被害が少ない地域に設定されたため、受援側として参加し、重症患者の受入れやSCUへの患者搬送、市内救護病院の被災状況の把握とEMIS代行入力(協力医療機関)、無線機を利用した医療用資機材の仮想調達訓練を行った。

(3) 災害対策用資機材の配備

- ・防災&災害専用テント（2張）

1次トリアージ後、軽症者の救護所用として第1駐車場に設置するテント（サイズ 2間×3間）の更新を行った。

(4) 職員・帰宅困難者用備蓄食料の配備（入院患者用の備蓄食料は配備中）

- ・サバイバルフーズ（24ケース 1,440食）

内訳：①ファミリーセット（チキンシチュー&クラッカー） ×12ケース

②ファミリーセット（野菜シチュー&クラッカー） ×12ケース

備蓄食料の見直しを行い、平成28年度より6ヵ年計画で「サバイバルフーズ（25年保管可能）の配備を開始した。

(5) DMATの活動・強化・育成

- ・組織の拡充として、隊員2名（日本DMAT隊員1名、静岡DMAT-L【リミテッド】隊員1名）の増員
- ・（政府訓練）平成28年度大規模地震時医療活動訓練【8月6日・中央病院】への参加
- ・平成28年度第2回中部ブロック災害派遣医療チーム（DMAT）技能維持研修【8月23日（火）－24日（水）・岐阜県大垣市】の受講
- ・平成28年度中部ブロック実動訓練【10月15日（土）－16日（日）・長野県松本市内】への参加
- ・院内救護所訓練【11月27日（日）・中央病院】への協力参加

4 来年度の課題

平成28年度より検討を開始した、局地的豪雨等による潤井川越水を想定した電源喪失時の対応・対策を継続検討する。また、災害対策マニュアルとともに整備が義務付けられたBCP（業務継続計画）の早期完成を目指す。

引き続き、富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、災害拠点病院として、急性期における医療救護活動と傷病者の広域搬送及び地域医療機関の支援に貢献するため、災害対策訓練の継続開催を通して職員一人ひとりの災害医療に対する技術及び知識向上を図り、災害対策用設備及び資機材等の配備を計画的に行っていく。

（文責 諸岡 暁）

## ■防火管理委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)
副委員長	杉沢 利次 (事務部長)	委員	柏木 秀幸 (副院長)
委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	委員	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	石川 隆之 (臨床検査科)
委員	井出 宣孝 (診療技術部長)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	大石 悦子 (副看護部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	白川 安俊 (病院総務課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	齋藤 幸子 (医事課(地域連携室))
委員	中川 貴裕 (病院総務課)	委員	武吉 勇喜 (警備室)
事務局	仲澤 実加 (病院総務課)		

### 2 開催回数

2回 (11月、2月)

### 3 平成28年度の取組実績

- ・消防法の規定に基づき、院内消防訓練を2回実施した。

第1回は11月16日に実施した。3B病棟での夜間を想定した病棟避難訓練、業者による消防設備の説明、救助袋を用いた病棟からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

第2回は2月3日に実施した。第1回と同様の病棟避難訓練を6B病棟で行い、業者による消防設備の説明を受けた。その後、はしご車を用いた別館屋上からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

### 4 来年度の課題

平成29年度も引き続き消防訓練を実施し、職員の防火意識の向上を図っていく。

(文責 諸岡 暁)

## ■虐待防止委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	日馬 由貴 (小児科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	北島 美鈴 (外来A)
委員	小野田智恵子 (3B病棟)	委員	東川 真理 (4B病棟)
委員	白川 安俊 (病院総務課)	委員	森 育洋 (医事課)
委員	江村 宏子 (医事課 (地域連携室))	事務局	岩垣 哲也 (医事課 (地域連携室))

### 2 開催回数

発生時随時開催

### 3 平成 28 年度の取組実績

児童虐待対応マニュアルに則り、虐待疑いを含めたケースへの速やかな対応を実施した。その結果、児童相談所への早期通告が実施できた。

今後も引き続き、院内への周知と発生時の迅速な対応に取り組んでいく。

また、児童虐待対応マニュアルをベースに、高齢者や障害者への虐待対応マニュアル及びDV対応マニュアルの整備に取り組んでいく。

### 4 来年度の課題

- ・ 高齢者や障害者虐待対応マニュアルの作成とDV対応マニュアルの作成
- ・ 職員を対象とした研修会や啓発講演会の開催

(文責 諸岡 暁)

## ■臨床研修センター

### 1 設置目的

富士市立中央病院の医師臨床研修を運営する。（平成 27 年 1 月 1 日設置）

### 2 役割

臨床研修センターは、初期臨床研修医の育成に関わる。具体的には、初期臨床研修医の募集・採用、研修プログラムの策定、評価や修了認定など、研修全般の運営、さらに臨床研修医の精神的支援など、研修プログラムの円滑な実施のため、院内診療科や地域の協力病院と連携して活動をする。

### 3 組織

役 職	氏 名	役 職	氏 名
センター長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副センター長	梶本 徹也 (外科)
指導主任	河野 優 (神経内科)	指導主任	良元 和久 (手術管理科・外科)
臨床研修医	白坂 和美	臨床研修医	坊 英明
臨床研修医	遠藤 憲彦	事務局	病院総務課

### 4 平成 28 年度の取組実績

- (1) 初期臨床研修医オリエンテーションの実施
- (2) 初期臨床研修医に対する面談の実施、ローテーションの調整
- (3) ウェブサイトの検討
- (4) 臨床研修案内の作成
- (5) 臨床研修指導医養成講習会への医師派遣（4名）
- (6) 研修の企画及び実施  
スキルアップ研修（初期・後期臨床研修医対象）等
- (7) 医学生に対する合同説明会参加
- (8) 平成 28 年度 臨床研修プログラムの実例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	必修 内科						選択必修 麻酔科	選択 外科	選択 放射線科	必修 救急		
2年	選択 必修 小児科	必修 小児科 《救急》	選択 必修 精神科 (鷹岡)	必修 地域 医療	選択 耳鼻いんこう科	選択 皮膚科	選択 放射 線科	選択 眼科	選択 必修 小児科	必修 内科	選択 必修 小児科	

(文責 笠井 健司)

## ■富士市透析防災ネットワーク

会長の笠井副院長が中心となり平成 22 年に発足。医療機関と行政が連携して「大規模地震等の災害時において、透析治療を必要とされる方が、安心して治療を受けることができるように、富士地区透析施設におけるネットワークを構築する」ことを目的に、体制の整備、訓練、啓発活動を行っている。

### 1 組織

会 長 笠井健司(富士市立中央病院副院長兼腎臓内科部長)

議 長 東名富士クリニック

副議長 富士市立中央病院

(参加透析施設)

加藤クリニック、共立蒲原総合病院、新富士病院、聖隷富士病院、  
東名富士クリニック、富士市立中央病院、富士第一クリニック (五十音順)

### 2 開催回数

日	時	場 所	内 容
H28. 6. 9	19:00	中央病院	第 1 回実務者会議
H28. 9. 8	19:00	東名富士クリニック	第 2 回実務者会議
H28. 11. 24	19:00	聖隷富士病院	透析機器研修
H29. 3. 1	19:00	中央病院	施設代表者会議
H29. 3. 30	19:00	東名富士クリニック	第 3 回実務者会議

### 3 平成 28 年度の取組実績

○富士市透析防災講演会の開催【平成 28 年 10 月 1 日 (土) ロゼ・シアター】

「熊本地震から何を学ぶか」 (富士市防災危機管理課 太田智久)

「2016 年版災害を乗り越えるために知っておきたいこと」

(富士市透析防災ネットワーク会長 笠井健司)

○7 施設に MCA 無線配備【H29. 3】

### 4 来年度の課題

来年度も引き続き透析患者向けの講演会を行う。また、第 2 種拠点透析施設を中心に透析機器研修を行うとともに、情報伝達訓練を実施する。

(文責 笠井 健司)

## ■利益相反（COI）委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	杉沢 利次（事務部長）	事務局	深澤 公保（病院総務課）

### 2 開催回数

3回（迅速審査のみ）

### 3 平成 28 年度の実績

利益相反委員会は、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」「適正」な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態について適正な管理を行うため、平成 27 年 4 月 1 日に設置した。

平成 28 年度は、迅速による審査を 3 回行った。

### 4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする利益相反が申請された場合は、速やかに委員会を開催し、利益相反管理規定に定める利益相反の適切な管理及び透明性の確保に努める。

（文責 諸岡 暁）

## ■NICU運営委員会

---

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	秋山 直枝 (小児科)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
副委員長	日馬 由貴 (小児科)	副委員長	森本 康江 (4 B病棟)
委員	千葉 浩介 (小児科)	委員	長谷川 瑛 (産婦人科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	水野 博代 (4 A病棟)
委員	東川 真理 (4 B病棟)	委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)
事務局	寺田 和子 (医事課)	事務局	島田 英介 (医事課)

### 2 開催回数

3回 (原則、第1木曜日)

### 3 平成28年度の取組実績

NICUの管理運営のため、前年度に引き続きオブザーバーとして小野寺院長、杉沢事務部長に参加していただき、NICUの運営と問題点について検討を行った。

検討した議題は、NICUのMRSA感染について、経営改善チームからの提案で、4 B病棟の稼働率を上げるため、GCUを含めた病床機能の変更について検討を行った。病床については、通常の病室から切り替えを行うため、手洗い場等の施設設備、コット等の医療機器の申請を行い設備を整えた。

### 4. 来年度の課題

委員会設立当初の問題や、中期的な検討課題が解消されたため、周産期カンファレンスで問題となった点やNICU運営の問題点発生時に委員長より開催するようにし、定期開催から必要時開催とした。

(文責 秋山 直枝)



## ■地域がん診療病院運営委員会

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	後藤 博一（診療部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	梶本 徹也（外科）	委員	鳥巢 勇一（消化器内科）
委員	良元 和久（手術管理科・外科）	委員	井出 宣孝（診療技術部長）
委員	落合 敏明（薬剤科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	事務局	地域連携室

### 2 開催回数

1回（通年での取り組み）

### 3 平成28年度の取組実績

本年度指定を受けた「地域がん診療病院」の機能維持と充実について検討する委員会として発足した。地域がん診療病院の指定要件について現状確認を行い、今後一層の充実を必要とする部分の洗い出しを行った。グループ指定先である静岡県立静岡がんセンターとの交流や連携の強化について検討し、院内への周知と協力依頼を行った。

静岡がんセンターでのがんセンターボードには毎週のように医師が参加し、緩和ケア地域連携カンファレンスには毎月当院緩和ケア委員会が参加させていただき、交流を深めることに努めた。

また、地域がん診療拠点病院において開催される緩和ケア研修会に、がん診療に携わる医師が参加し、修了者を増やすことができた。

今後も継続して「がん診療拠点病院」の指定に向け取り組んでいく。

### 4 来年度の課題

- ・自院がんセンターボードの充実（多職種参加型がんセンターボードの実施）
- ・自院での緩和ケア研修の開催
- ・地域の方々へのがん教育の実施

（文責 柏木 秀幸）

## ■リハビリテーション運営委員会

---

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	加藤 努（整形外科）	副委員長	野田 靖人（脳神経外科）
副委員長	平川 正彦（形成外科）	委員	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	中野 真範（消化器内科）	委員	野澤 里美（3C病棟）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	佐藤 理絵（医事課（地域連携室））
委員	島田 英介（医事課）	委員	前嶋 健二（医事課）
委員	中村 公美（リハビリテーション科）	事務局	リハビリテーション科

### 2 開催回数

2回開催

### 3 平成28年度の取組実績

- ・平成28年7月1日に委員会を設立した。
- ・第1回委員会では、「目標設定等管理・支援料」の算定に向けての運用方法検討及び周知を図った。
- ・第2回委員会では、非常勤リハビリ医師の配置にあたり、「平成29年度のリハビリ回診の運用」についての検討を行った。

### 4 来年度の課題

平成30年度に大幅な診療報酬改訂が予想されるために、それに対する検討が必要になると思われる。

リハビリ専門医の常勤配置が不可欠であるため、配置実現に向け働きかけていく。

（文責 加藤 努）

## ■医療機器等長期整備計画検討委員会

---

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	白川 安俊（病院総務課）
委員	柏木 秀幸（副院長）	委員	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	後藤 博一（泌尿器科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	西田 英明（臨床工学科）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	中川 貴裕（病院総務課）
事務局	佐山 侑希（病院総務課）		

### 2 開催回数

1回

### 3 平成 28 年度の実績

富士市立中央病院の老朽化が進行する中、高度医療機器等を適切かつ効率的に、整備し高度で安全安心な医療を継続して提供するため、医療機器等長期整備計画検討委員会を設置した。

### 4 来年度の課題

新病院建設を念頭に、長期の医療機器整備の効率的運用及び管理について検討を行うため、主要医療機器整備リストを作成し、各部門、各科との意見調整の上、優先順位付けし、整備計画を策定する。

（文責 杉沢 利次）

## ■省資源・省エネルギー対策推進委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	道躰 隆行（外科副部長）
副委員長	伊藤 すみ子（看護部長室）	委員	13名

## ■終末期医療対策委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
委員	6名		

## ■内科専門研修プログラム管理委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）	副委員長	阪本 宏志（循環器内科）
委員	14名		